

2025.07.03 作成

2025 年 6 月新聞書評に掲載された本



アウト老のすすめ

みうらじゅん 著

文藝春秋

人生を面白くするのも、つまらなくするのも、自分次第-。大人げないまま新型高齢者となったみうらじゅんが、珍妙な日常や妄想を綴り、息苦しい社会に風穴を開けるエッセイ集。『週刊文春』連載を加筆し書籍化。

産経新聞 2025/06/01

2025:4./ 303p

978-4-16-391975-1

¥1,540〔税込〕



9 784163 919751



フェアリー・テイル<上>

スティーヴン・キング 著

文藝春秋

<サイコハウス>と呼ばれる不気味な屋敷に住む老人の世話をするぼくは、家の裏手からときどき妙な音が聴こえてくることに気づく。老人が大量の黄金の粒を金庫に入れていることを知ったぼくを待っていたのは...

産経新聞 2025/06/01

2025:4./ 318p

978-4-16-391977-5

¥4,675〔税込〕



9 784163 919775



フェアリー・テイル<下>

スティーヴン・キング 著

文藝春秋

大事な友を救うために、二つの月の輝く異世界の王国をたびするぼく。だが今や王宮は<飛翔殺手>なる者に篡奪され、王族は呪いをかけられて宮殿から追放されていた...。巨匠渾身の冒険ファンタジー大作。

産経新聞 2025/06/01

2025:4./ 327p

978-4-16-391978-2

¥4,675〔税込〕



9 784163 919782



トットちゃんとカマタ先生のずっとやくそく

黒柳 徹子／鎌田 実 著

実業之日本社

人の役に立つことが「生きる」こと。小学生から大人まで、人間にとって何が大事なかがわかる一冊。女優・黒柳徹子と医師・鎌田実が人生を語り合った対談集の新装版。

産経新聞 2025/06/01

2025:3./ 275p

978-4-408-65141-5

¥1,980〔税込〕



9 784440 865141

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2025 年 6 月時点での税込み価格です。



ロシア帝国ウサージバ物語

坂内知子 著

成文社

プーシキンの天才を爆発させ、トルストイに歓喜と苦悩を与え、チャーホフをはかない野望に駆り立てたロシアのユートピア、貴族屋敷(ウサージバ)。大地の富と無限の自由を手にしたウサージバ変遷の 300 年をたどる。

産経新聞 2025/06/01

2025:4./ 382p
978-4-86520-075-1

¥2,750〔税込〕



ミロのことば〜私は園丁のように働く〜

イヴォン・タイヤンディエ 編

ジュアン・ミロ 著

平凡社

20 世紀の動乱と戦争と弾圧の時代を生き、狂気が支配する世界の中で悲観をユーモアと希望に満ちた芸術に昇華し、真の人間とはどうあるべきかを問い続けた芸術家ジュアン・ミロ。そのインタビューを収録する。

産経新聞 2025/06/01、朝日新聞 2025/06/28

2025:5./ 95p
978-4-582-83984-5

¥2,750〔税込〕



札幌誕生

門井 慶喜 著

河出書房新社

幕末から大正にかけて、未知の土地・北海道にわたり、近代都市・札幌を作った、島義勇、内村鑑三、バチラー八重子、有島武郎、岡崎文吉。それぞれの熱き開拓の物語。『北海道新聞』他掲載を加筆修正。

産経新聞 2025/06/01、日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 557p
978-4-309-03948-0

¥2,475〔税込〕



往来絵巻〜貸本屋おせん〜

高瀬 乃一 著

文藝春秋

2 年に一度の天下祭り・神田明神祭で、絵巻に描かれるはずの男が消えた？ まさかの有名絵師を巻き込んだ殺人事件が発生するが、貸本屋<おせん>の推理がさえわたり…。『オール讀物』掲載に書きおろしを加えて単行本化。

産経新聞 2025/06/01、毎日新聞 2025/06/02

2025:5./ 238p
978-4-16-391981-2

¥1,870〔税込〕



金魚すくいのように〜小林理央歌集〜

小林 理央 著

KADOKAWA

枠組みを持たない気持ちをひとつかみこねて丸めて焼き上げること おやすみの合図で夢は走り出す布団は旅へのスタート地点 高校入学から社会人 2 年目になるまで、10 年間に詠んだ歌を収めた第 1 歌集。

産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 144p
978-4-04-884627-1

¥1,980〔税込〕





焼死体たちの革命の夜

中原 昌也 著

河出書房新社

馬に乗って新宿を彷徨う「あの農場には二度と」など、時代の危機を先取りする崩壊感覚と、生のあり方を問う真摯さに貫かれた短篇を集成。『文藝』ほか掲載を書籍化。

産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 221p
978-4-309-03960-2

¥3,256〔税込〕



タコ・イカが見ている世界(創元ビジュアル教養+α)

吉田 真明／滋野 修一 著

創元社

タコ・イカなどの頭足類は、人類とはまったく異なる身体・脳の構造を持っているが、高度な知性の持ち主であることが分かってきた。その進化史から特異な身体の構造、そして心の中や社会性まで、豊富な図版と共に紹介する。

産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 151p
978-4-422-43063-8

¥1,980〔税込〕



町の本屋はいかにしてつぶれてきたか～知られざる戦後書店抗争史～(平凡社新書 1079)

飯田 一史 著

平凡社

かつて駅前に必ずあった本屋。いつから、どのようにして「町の本屋」はなくなってきたのか？配本の偏り、低すぎる利益率、国の競争政策…。出版流通の課題を歴史とデータから読みとく、戦後、書店が辿った道を明らかにする。

産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 351p
978-4-582-86079-5

¥1,320〔税込〕



コザカイズム～歌集～

小坂井大輔 著

短歌研究社

ザ・ビートルズですら解散したんだし虹のふもとに自転車で行く 寝室の遮光カーテンまで持って出ていく元恋人のきらめき 280 首を収録した、セカンドアルバムの短歌集。『短歌研究』掲載に書き下ろしを加える。

産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 157p
978-4-86272-788-6

¥2,750〔税込〕



日本海・竹島のアシカ猟～1934(昭和 9)年の取材記録と『中渡瀬アルバム』～

井上貴央／佐藤仁志 著

産経新聞出版

今から約 90 年前に取材で竹島を訪ねたカメラマンが作成したアシカ猟のアルバムの写真を収録するとともに、映像や新聞の記述を参考に、撮影地点と撮影方向を特定して、写真の場面を解説。竹島の自然やアシカ猟の実態を伝える。

産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 95p
978-4-86306-189-7

¥2,970〔税込〕





動物と老いとケアのはなし〜聴診器からきこえる〜

小菅正夫 著

中央法規出版

動物園で様々な動物の飼育、治療、手術を行った獣医師が、野生動物の生きる意味や群れの中での生きがい、老いていく動物の QOL、動物園における動物福祉のあり方、超高齢化する人間社会や動物同士のケアに思いを馳せる。

2025:5./ 318p
978-4-8243-0251-9

¥1,870〔税込〕



産経新聞 2025/06/08、読売新聞 2025/06/15、日本経済新聞 2025/06/28



インテリジェンスの基礎理論(講談社学術文庫 2863)

小林 良樹 著

講談社

国際紛争、サイバーセキュリティ…。混迷をきわめる現代社会において、インテリジェンス活動は必須の政治機能である。「国家安全保障」を支えるインテリジェンスとは何か？元内閣情報分析官がその理論と具体例を徹底解説。

2025:4./ 339p
978-4-06-538824-2

¥1,650〔税込〕



産経新聞 2025/06/15



食の本〜ある料理人の読書録〜(集英社新書 1257)

稲田 俊輔 著

集英社

食べるだけが「食」じゃない！料理人であり実業家であり文筆家でもある、自称「活字中毒」の著者が、小説からエッセイ、漫画にいたるまで、食べ物にまつわる古今東西の 25 作品を厳選。食を“読んで”味わう醍醐味を綴る。

2025:4./ 220p
978-4-08-721357-7

¥1,067〔税込〕



産経新聞 2025/06/15



ジジイの昭和絵日記

沢野 ひとし 著

文藝春秋

昭和 19 年生まれの著者は、人生のほぼすべてを戦後と共に生きてきた。それはまるで、奇跡のように平和な時代。いつの時代も人は懸命に生きてきた。共に生き、暮らし、そして風になっていった人々に送る 31 篇の人間賛歌。

2025:4./ 294p
978-4-16-391973-7

¥2,255〔税込〕



産経新聞 2025/06/15



美味しく楽しいフランス文学〜文学から考えるフランスの飲食文化〜

福田育弘 著

教育評論社

「バルザックの描く食事風景」など、19 世紀フランス文学の料理や食事場面に着目し、料理史的な見方を中心に、当時のフランスの飲食文化の中に位置づける。フランス文学を美味しく楽しく読むための新しい扉。

2025:3./ 295p
978-4-86624-111-1

¥2,420〔税込〕



産経新聞 2025/06/15



辺境的～武蔵野詩遊行～

正津 勉 著

作品社

首都のすぐ傍にある辺境、武蔵野。国木田独步「山林に自由存す」、正岡子規「高尾紀行」、若山牧水「武蔵野」、高群逸枝「日月の上に」…。この地でしか生まれえないような詩や文を読みつづ、辺境たる由縁を探索する。

産経新聞 2025/06/15

2025:4./ 269p
978-4-86793-079-3

¥2,970〔税込〕



独断と偏見(集英社新書 1268)

二宮 和也 著

集英社

俳優やアーティストとしての表現のみならず、発信する独創的な言葉の力に定評がある二宮和也。ビジネス論から人づきあいの流儀、会話術から死生観にいたるまで、10の四字熟語をテーマにした100の問いに答える。

産経新聞 2025/06/22

2025:6./ 187p
978-4-08-721368-3

¥1,100〔税込〕



いっそあの方が死んで下すたら～伊澤みゆき作品集～

伊澤みゆき 著

国書刊行会

1912年から1916年にかけて『少女画報』に少女小説を発表した伊澤みゆきの作品集。少女同士の熱い友情を描き、読者から大きな支持を集めた「闇に居て」「春も逝く」などの短編小説60編を収録する。

産経新聞 2025/06/22

2025:5./ 501p
978-4-336-07764-6

¥3,960〔税込〕



古事記の博物図鑑～1300年前の日本の生物・植物・鉱物を1000点以上のヴィジュアルで解き明かす～

伊藤 弥寿彦 著

世界文化社

古代日本人はどのような生物、植物、鉱物などを認識していたのか? 「古事記」に登場する自然物を、動物、植物、無機物、藻類、菌類に分類し、物語の流れに沿って、写真や図版とともに紹介する。「古事記」の現代語訳も収録。

産経新聞 2025/06/22

2025:5./ 463p
978-4-418-24211-5
¥6,600〔税込〕



中華とは何か～遊牧民からみた古代中国史～(ちくま新書 1856)

松下 憲一 著

筑摩書房

統合と分裂を繰り返した古代中国史で「野蛮な夷狄」であるはずの遊牧民が統一王朝を支配した時代も少なくない。巨大帝国を維持し結束させた思想は何だったのか。中国史を遊牧民の視点から捉えなおすことで、中華の本質に迫る。

産経新聞 2025/06/22

2025:5./ 277p
978-4-480-07683-0
¥1,078〔税込〕





記憶の対位法

高田 大介 著

東京創元社

戦後、対独協力者として断罪された祖父が遺した、大量の古書と 20 あまりの黒檀の小箱。祖国、信仰、そして音楽の記憶を辿るべく、青年は歴史の迷宮に足を踏み入れる。『紙魚の手帖』掲載を書籍化。

産経新聞 2025/06/22

2025:4./ 435p
978-4-488-02919-7

¥2,420〔税込〕



モード誌と戦争～宇野千代が『スタイル』で描いた夢～

和田 博文 著

平凡社

宇野千代が編集したモード誌『スタイル』は、『ヴォーグ』が描くモダンな女性像への憧れから生まれた。創刊号から戦争の影響で廃刊するまでの誌面を分析し、日本のモード形成期をひもとく。

産経新聞 2025/06/22

2025:3./ 316p
978-4-582-83981-4

¥6,490〔税込〕



怪異・妖怪学コレクション<1> 怪異・妖怪とは何か

廣田 龍平／安井 眞奈美 編

河出書房新社

飛躍的な進展を遂げ、人文学の新領域としての地位を確立した怪異・妖怪研究の重要論考を精選。1 は、妖怪概念や方法論、比較研究に焦点を当てた論考を収録する。

産経新聞 2025/06/22、読売新聞 2025/06/22

2025:4./ 344p
978-4-309-71481-3

¥3,300〔税込〕



蜘蛛～なぜ神で賢者で女なのか～(講談社選書メチエ 826)

野村 育世 著

講談社

清少納言も絶賛し、神仏のお使いとして崇められた存在は、いつから嫌われ者になったのか? 人と蜘蛛の不思議な関係を貴重な図版・史料とともに丁寧に考察。日本の伝統文化の中で、蜘蛛を見る目の変遷を探る。

産経新聞 2025/06/29

2025:6./ 317p
978-4-06-539550-9

¥2,970〔税込〕



小バラ色の人生 新野新で語る大阪放送界史

鹿島我 著

神戸新聞総合出版センター

産経新聞 2025/06/29

2025:6./ 255p
978-4-343-01275-3

¥2,200〔税込〕





欧米幻想ファンタジー精華～荒俣宏幻想文学翻訳集成～<第1巻> 妖精幻想詩画帖

荒俣宏 著
春陽堂書店

荒俣宏の半世紀にわたる幻想文学翻訳の集大成。第1巻は、「妖精の国で」「秘密の共和国」「しあわせな子ら」など全19編の妖精詩と、それを飾った美しい妖精画、解説を収録する。

産経新聞 2025/06/29

2025:2./ 511p
978-4-394-90461-8
¥6,600〔税込〕



恐怖とパニックの人類史

ロバート・ペッカム 著
東京堂出版

様々な種類の恐怖を作り出すことで様々な政治体制が可能になり、経済秩序の台頭もまた国が後押しする恐怖が重要な役割を果たした。ペスト、金融危機、一党独裁…。恐怖の歴史を辿り、人々を支配し、従わせるものの正体に迫る。

産経新聞 2025/06/29

2025:3./ 510p
978-4-490-21108-5
¥5,940〔税込〕



つくみの記憶

白石一文 著
双葉社

遼平は、ほぼ初対面のつくみが昔からの知り合いのような感覚に襲われ、わずか1カ月半で結婚。それまで恋人だった友莉が失踪し、捜索を進めるにつれ驚愕の真実を知ること…。『小説推理』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

産経新聞 2025/06/29

2025:5./ 350p
978-4-575-24816-6
¥2,090〔税込〕



帝国と観光～「満洲」ツーリズムの近代～

高 媛 著
岩波書店

観光を通じて満洲における「帝国の物語」はどのように紡がれ、満洲国崩壊後の「失われた帝国への郷愁」はどのように醸成されたのか。観光が生み出した欲望と記憶の背後に潜む政治的意図や複雑な構造を明らかにする。

朝日新聞 2025/06/07

2025:3./ 342p
978-4-00-024070-3
¥4,730〔税込〕



日本語からの祝福、日本語への祝福

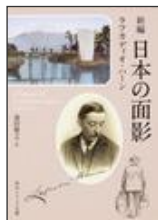
李琴峰 著
朝日新聞出版

愛憎入り混じる外来語、四文字の宇宙、震災と留学、音を科学する魔法…。台湾で生まれ、15歳までは「あいうえお」も知らなかった著者が、第二言語として日本語を学ぶことの面白さと困難さを綴る。『一冊の本』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/06/07

2025:2./ 274p
978-4-02-252033-3
¥1,980〔税込〕





新編日本の面影(角川ソフィア文庫)

ラフカディオ・ハーン 著

角川書店

美しい日本の人々と風物を印象的に描いたハーンの代表作『知られぬ日本の面影』を新編集。

2000:9./ 351p
978-4-04-212004-9

¥858〔税込〕



朝日新聞 2025/06/07



古事記異聞～鬼棲む国、出雲～(講談社ノベルス タ S-51)

高田 崇史 著

講談社

研究テーマについての見識のなさを担当教官に指摘され、出雲に旅立った雅。出雲国四大神とは、「神在祭」とは。雅が向かう黄泉比良坂では、髪を切られ、左眼に簪を突き立てられた巫女の遺体が…。知られざる歴史の真実を描く。

2018:6./ 255p
978-4-06-299121-6

¥968〔税込〕



朝日新聞 2025/06/07



新書昭和史～短い戦争と長い平和～(講談社現代新書 2767)

井上 寿一 著

講談社

グローバル化、格差拡大、揺らぐデモクラシー。現代日本の課題は、戦前昭和にあった! 近現代 100 年を、過酷な状況のなか懸命に生きた人びとの群像劇で描写する昭和年代記。写真も多数収録。

2025:3./ 378p
978-4-06-539186-0

¥1,430〔税込〕



朝日新聞 2025/06/07



やめるときも、すこやかなるときも(集英社文庫 く 36-1)

窪 美澄 著

集英社

忘れられるわけなんかない。僕が生まれて初めて結婚しようと思った相手のこと-。大切な人の死を忘れられない男と恋の仕方を知らない女の、切なく不器用な恋の物語。

2019:11./ 445p
978-4-08-744044-7

¥836〔税込〕



朝日新聞 2025/06/07



人のために働く<上>(ビッグ コミックス)

岩崎 真 著

小学館

不登校、出社拒否...100 万人超が家に引きこもる時代。人生の岐路に立つ一人の青年が、"世"と向き合い始める。彼が辿り着く先は...? 小学館新人コミック大賞、大賞受賞作家の鮮烈デビュー作!!

2025:4./ 208p
978-4-09-863199-5

¥770〔税込〕



朝日新聞 2025/06/07



人のために働く<下>(ビッグ コミックス)

岩崎 真 著

小学館

生きづらさを抱えながら”世”と向き合う青年が繰り返す前進・後退・停滞... それがやがて、静かで大きな転換をもたらしてゆく。小学館新人コミック大賞、大賞受賞作家の鮮烈デビュー作、ここに完結。

朝日新聞 2025/06/07

2025:4./ 192p
978-4-09-863212-1

¥770〔税込〕



砂の器<上> 改版(新潮文庫 ま-1-24)

松本 清張 著

新潮社

朝日新聞 2025/06/07

2006:10./ 462p
978-4-10-110924-4

¥935〔税込〕



砂の器<下> 改版(新潮文庫 ま-1-25)

松本 清張 著

新潮社

人間は背負った宿命から逃れることはできない。善良この上ない元巡査を殺害した犯人は誰か?そして前衛劇団の俳優と女事務員殺しの犯人は?新進芸術家として栄光の座につこうとする青年の暗い過去を追う刑事の艱難辛苦を描く本格的推理長編である。

朝日新聞 2025/06/07

2006:10./ 506p
978-4-10-110925-1

¥990〔税込〕



しろがねの葉

千早 茜 著

新潮社

戦国末期、採掘最盛期を迎える石見銀山。天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き...。渦巻く欲望と死に抗って生きる女の生涯を描く。『小説新潮』連載を加筆修正。

朝日新聞 2025/06/07

2022:9./ 314p
978-4-10-334194-9

¥1,870〔税込〕



ギンガムチェックと塩漬けライム〜翻訳家が読み解く海外文学の名作〜

鴻巣 友季子 著

N H K 出版

翻訳家・文芸評論家である著者が、誰もが知る名著を全く新しい切り口で解説し、小説のあじわい方を指南する大人向けブックガイド。作品理解の深まる英語トリビアも満載。NHK テキスト『ラジオ英会話』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2025/06/07

2025:4./ 258p
978-4-14-081987-6

¥1,980〔税込〕





あかい蠢動〜園山二美作品集〜(RuelleCOMICS)

園山 二美 著
実業之日本社

20世紀末に産み落とされた傑作コミックス『蠢動』『続 蠢動』から珠玉短編を選び抜き、初収録作品+描き下ろしを加えた、あかく、赤く、紅く、赫い衝動がほとばしる作品集。

朝日新聞 2025/06/07

2025:4./ 213p
978-4-408-64183-6
¥1,320〔税込〕



近代日本メディア議員列伝<12> 米原昶の革命

松永 智子 著
創元社

明治から戦後にかけて<政治のメディア化>を体現したメディア議員を深掘りする。
12は、鳥取の資本家から共産党代議士となり、『赤旗』編集局長として活躍、文筆家・米原万里の父としても知られる米原昶の実像に迫る。

朝日新聞 2025/06/07

2025:2./ 358p
978-4-422-30112-9
¥2,970〔税込〕



休養学〜「休み方」を20年間考え続けた専門家がついに編み出したあなたを疲れから救う〜

片野 秀樹 著
東洋経済新報社

人はなぜ疲れるのか? 休まないでいると人間の体はどうなるのか? 疲れがとれる最も効果的な休み方は? 20年間「休み方」を考え続けた専門家が編み出した「科学的に正しい休養法」を大公開する。

朝日新聞 2025/06/07

2024:3./ 214p
978-4-492-04748-4
¥1,650〔税込〕



少年探偵団(ポプラ文庫)

江戸川 乱歩 著
ポプラ社

大ベストセラー「少年探偵」シリーズが、懐かしい装丁をそのままに、文庫化! 明智小五郎と、小林少年率いる少年探偵団が大活躍。

朝日新聞 2025/06/07

2008:11./ 255p
978-4-591-10620-4
¥594〔税込〕



青の刀匠

天沢 夏月 著
ポプラ社

傷を負った孤独な少年が会ったのは、日本で唯一といえる女性刀鍛冶だった。伝統工芸の美しさ、厳しさ、そして脈々と受け継がれていくものとは-。少年の成長を瑞々しく綴る、胸が熱くなる青春小説。

朝日新聞 2025/06/07

2022:11./ 289p
978-4-591-17505-7
¥1,760〔税込〕





世界ひと皿紀行～料理が映す 24 の物語～

岡根谷実里 著

山と溪谷社

アジア、ヨーロッパ、中南米、オセアニアの国/地域の台所を探検した著者が、「ひと皿」の料理から映し出されるそれぞれの土地の暮らしと社会を綴る。おうちで作れる 10 レシピも掲載。『味の手帖』連載を抜粋、再構成。

朝日新聞 2025/06/07

2025:2./ 199p
978-4-635-24130-4

¥2,200〔税込〕



駆けろ～少年騎馬遊撃隊～(ハルキ文庫 時代小説文庫 い 30-1)

稲田 幸久 著

角川春樹事務所

吉川元春に拾われ、騎馬遊撃隊を率いるようになった少年・小六。尼子再興を願う猛将・山中幸盛(鹿之助)。それぞれが異なる強さを求め、あがき、抗う。男たちが駆け抜けた果てに見たものは何だったのか。

朝日新聞 2025/06/07

2024:6./ 398p
978-4-7584-4643-3

¥990〔税込〕



新・大阪学(SB 新書 690)

畑中章宏 著

S Bクリエイティブ

多彩な伝統食材、南都大阪をつくった女性たちのまなざし、京都・奈良に引けを取らない仏教美術、最先端の知的ネットワーク…。大阪生まれの民俗学者が、8つのキーワードから<大阪とは何か>を問いなおす、異色の大阪ガイド。

朝日新聞 2025/06/07

2025:4./ 287p
978-4-8156-3090-4

¥1,045〔税込〕



近代イギリスの動物史～歴史学のアニマル・ターン～

伊東 剛史 著

名古屋大学出版会

虐待・実験をめぐる論争、進化論、「生物多様性」の誕生…。19世紀から20世紀初頭にかけてのイギリスを対象に、ロンドン動物園を起点として現代にいたる動物観の形成を解き明かし、人新世の幕開けについて考察する。

朝日新聞 2025/06/07

2025:2./ 424p
978-4-8158-1183-9

¥6,930〔税込〕



TOU(TISSUE PAPERS 10)

三重野龍 著

T I S S U E

多様な領域におけるグラフィックデザインを手掛ける三重野龍の、10年余りにわたる活動の軌跡を収めた作品集。触覚や時間の経過、抽象と具象の交錯といった観点から、デザインへの思考、向き合い方に迫る。ステッカー付き。

朝日新聞 2025/06/07

2025:4./ 512p
978-4-909287-10-6

¥13,200〔税込〕





刑事コロンボとピーター・フォーク～その誕生から終幕まで～

デイヴィッド・ケーニッヒ 著

原書房

脚本の妙、個性的な風貌、印象的なセリフでミステリファンの心をとらえて離さないドラマ「刑事コロンボ」。主演俳優ピーター・フォークについてのみならず、監督、脚本家などの証言をもとに、ドラマの舞台裏まで網羅する。

2025:4./ 412p
978-4-562-07526-3

¥2,750〔税込〕



朝日新聞 2025/06/07、日本経済新聞 2025/06/21、読売新聞 2025/06/29



正欲(新潮文庫 あ-78-3)

朝井 リョウ 著

新潮社

息子が不登校になった検事、初めての恋に気づく女子大生、ひとつの秘密を抱える契約社員。ある死をきっかけに重なり始めるそれぞれの人生。だがその繋がりとは、“多様性を尊重する時代”にとって不都合なもので…。長編小説。

2023:6./ 512p
978-4-10-126933-7

¥935〔税込〕



朝日新聞 2025/06/08



人生後半にこそ読みたい秀歌

永田和宏 著

朝日新聞出版

生物学的には意味のない「後の生」のおもしろさと豊かさは、どのように詠われてきたのか。人生後半にこそ読みたい秀歌を紹介しながら、中高年期を充実して生きるヒントを探る。『一冊の本』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

2025:4./ 273p
978-4-02-252051-7

¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2025/06/14



「国境なき医師団」をそれでも見に行く～戦争とバングラデシュ編～

いとう せいこう 著

講談社

バングラデシュにあるロヒンギャ難民キャンプを訪ね、世界が暴力に覆われるなか、困難を増す難民の人々の現実と国際人道支援の最前線を描く。歴史学者・藤原辰史との対談も収録。『群像』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

2025:4./ 216p
978-4-06-539086-3

¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2025/06/14



戦国大名の外交(講談社学術文庫 2864)

丸島 和洋 著

講談社

戦国大名は「外交」を活発に行って戦国時代を生き抜かんとしていた。武田信玄・今川義元・北条氏康による「駿駿相三国同盟」の成立の舞台裏をはじめ、文書と交渉者「取次」が飛び交う、外交の現場を生々しく描き出す。

2025:4./ 407p
978-4-06-539478-6

¥1,870〔税込〕



朝日新聞 2025/06/14



芭蕉はがまんできない〜おくのほそ道随記〜(集英社文庫 せ 4-8)

関口 尚 著

集英社

芭蕉の奥州への旅に同行する曾良は、師の抱える矛盾に翻弄されながらも、名句誕生の瞬間に立ち会える感動も味わい…。紀行文の最高峰に込められた奥深さを体感できる、画期的な歴史小説。『青春と読書』連載を加筆し文庫化。

朝日新聞 2025/06/14

2025:4./ 431p
978-4-08-744765-1

¥1,056〔税込〕



桶川ストーカー殺人事件〜遺言〜(新潮文庫)

清水 潔 著

新潮社

朝日新聞 2025/06/14

2004:5./ 418p
978-4-10-149221-6

¥825〔税込〕



わたしは榎図かずお〜マンガから芸術へ〜

榎図かずお／石田汗太 著

中央公論新社

かつて日本中の子どもたちを恐怖のどん底に陥れた天才マンガ家・榎図かずおが、父と母、自然、文明、そしてマンガのことを語った自伝。デビュー前の肉筆回覧誌から貴重な作品2点をカラー図版で収載。

朝日新聞 2025/06/14

2025:3./ 221p 図版 11
枚

978-4-12-005894-3

¥2,530〔税込〕



刑事たちの挽歌〜警視庁捜査一課「ルーシー事件」〜 増補改訂版(文春文庫 た 89-2)

高尾 昌司 著

文藝春秋

1人の英国人女性の捜索が端緒となり、やがて世を震撼させる事件の全容が浮かび上がる。犯人にじわりじわりと詰め寄る警視庁捜査一課の刑事たちの3089日を追う。Netflix ドキュメンタリーの原作。

朝日新聞 2025/06/14

2022:12./ 429p
978-4-16-791938-2

¥979〔税込〕



本売る日々(文春文庫 あ 64-7)

青山 文平 著

文藝春秋

本屋の“私”は月に1度、城下の店を出て村の寺や家を回り…。『古事記伝』『群書類従』など高価な本を買い、不思議な情熱で知識を求める村人たちの心と暮らしをスリングに描く連作時代小説。

朝日新聞 2025/06/14

2025:6./ 253p
978-4-16-792376-1

¥825〔税込〕





極北の海獣

イーダ・トゥルペイネン 著

河出書房新社

18 世紀ロシア、19 世紀アラスカ、現代フィンランド…。人間の手で絶滅させた海獣ステラカイギュウを巡る、3 世紀にわたる冒険譚。海獣の存在を縦糸に、海獣に様々な形でかかわった人々の思いを横糸に、壮大な物語を紡ぐ。

朝日新聞 2025/06/14

2025:5./ 266p
978-4-309-20924-1

¥2,970〔税込〕



すくえた命〜太宰府主婦暴行死事件〜

テレビ西日本 塩塚陽介 著

幻冬舎

2019 年 10 月。福岡・太宰府市で平凡な主婦の凄惨な遺体が見つかった。遺族の告発を聞いたテレビ西日本報道部が調査報道を開始すると、浮かび上がってきたのは佐賀県警鳥栖警察署の杜撰な対応だった…。

朝日新聞 2025/06/14

2023:12./ 327p
978-4-344-04213-1

¥1,870〔税込〕



動物には何が見え、聞こえ、感じられるのか〜人間には感知できない驚異の環世界〜

エド ヨン 著

柏書房

動物たちの感覚とは一体どのようなものか。人間より優れているのか。五感を動物ごとに人間と比べてその違いを解明。電気や磁気といった人間には全く感じられない感覚についても解説する。

朝日新聞 2025/06/14

2025:2./ 610p 図版 32p
978-4-7601-5601-6

¥3,850〔税込〕



未来に残したいウクライナの木造教会

ガリーナ・シェフツォバ 著

エクスナレッジ

大地に溶け込む聖なる教会-。キリスト教以前の古代からの文化や伝統が複雑に絡み合い、独特の魅力を持つ「ウクライナの木造教会」を写真で紹介する。世界遺産「カパルティア地方の木造教会群」を含む、129 件の教会を掲載。

朝日新聞 2025/06/14

2025:4./ 143p
978-4-7678-3403-0

¥2,200〔税込〕



棺桶も花もいらない

朝倉 かすみ 著

U-NEXT

日雇い労働、シングルマザー、天涯孤独。幸せかどうか分からないけど、生まれてきたから生きている。明日への諦念と今日への執念を抱える人々の生きざまを活写した全 5 編を収録。U-NEXT オリジナル書籍を加筆し書籍化。

朝日新聞 2025/06/14

2025:4./ 281p
978-4-910207-51-3

¥1,870〔税込〕





生きる言葉(新潮新書 1083)

俵 万智 著

新潮社

日本語の足腰をどう鍛えるか。恋愛、子育て、ドラマ、歌会、SNS、AI など、さまざまなシーンでの言葉のつかい方を、歌人・俵万智ならではの視点で、実体験をふまえて考察する。

2025:4./ 235p
978-4-10-611083-2

¥1,034〔税込〕



朝日新聞 2025/06/14、産経新聞 2025/06/29



沖縄ノート 改版(岩波新書 青版 F-28)

大江 健三郎 著

岩波書店

沖縄をくり返し訪れることによって、著者は、本土とは何か、日本人とは何かを見つめ、われわれにとっての戦後民主主義を根本的に問いなおす。

2021:9./ 234p
978-4-00-415028-2

¥1,034〔税込〕



朝日新聞 2025/06/21



海風クラブ

呉 明益 著

KADOKAWA

タロコ族の少年と、人買いから逃げる漢人の少女が、山の洞穴(実は巨人の身体)の中で出会う。時が経ち、陽光と涼風に恵まれた小さな集落に、巨大なセメント工場が建設されることになり…。壮大で不思議な物語。

2025:5./ 478p
978-4-04-114688-0

¥3,080〔税込〕



朝日新聞 2025/06/21



ひめゆりの塔をめぐる人々の手記 改版(角川文庫)

仲宗根 政善 著

角川書店

太平洋戦争の末期、日本国土で最大の戦場となった沖縄では、住民をまき込んで 20 数万の犠牲者を出した。なかでも悲惨をきわめたのは、従軍看護婦として戦争に参加したわずか 16 歳から 20 歳までの若いひめゆり学徒たちの最期であった。

1995:3./ 445p



朝日新聞 2025/06/21



黒いイギリス人の歴史～忘れられた 2000 年～(講談社選書メチエ 823)

平田 雅博 著

講談社

「黒いイギリス人」は歴史に激しく翻弄されながらも、忘れられた存在だった。長い歴史の中でイギリスに存在した黒人に関連する史料をとりあげて、「白いイギリス人」と女王様の国というイメージとは異なる歴史像を提示する。

2025:4./ 251p
978-4-06-539325-3

¥2,090〔税込〕



朝日新聞 2025/06/21



翻訳する私(CREST BOOKS)

ジュンパ・ラヒリ 著

新潮社

私は、異なる言語の狭間に生きて、読んで、考えて、書いてきた。ベンガル人の両親のもとロンドンで生まれ、アメリカで育った小説家が、「翻訳」について考えたことを、半生をひもときながら綴る。

朝日新聞 2025/06/21

2025:4./ 189p
978-4-10-590199-8

¥2,145〔税込〕



権利の名のもとに〜イスラエルにおける性的少数者の権利と動物の権利〜

保井 啓志 著

東京大学出版会

イスラエルで 20 世紀末から興隆した、性的少数者の権利と動物の権利という 2 つの権利に関わる政治が、いかにしてイスラエルのナショナリズムや排外主義に結びついてきたのかを精緻に分析する。

朝日新聞 2025/06/21

2025:4./ 344p
978-4-13-036291-7

¥6,380〔税込〕



謎の香りはパン屋から

土屋うさぎ 著

宝島社

大学 1 年生の小春はパン屋でアルバイトしている。あるとき親友の由貴子にドタキャンされてしまう。誘ってきたのは彼女のほうなのにどうして？ 小春は彼女の行動を振り返り、意外な真相に辿りつく…。<日常の謎>連作短編集。

朝日新聞 2025/06/21

2025:1./ 253p
978-4-299-06264-2

¥1,650〔税込〕



私、山小屋はじめます

小宮山 花 著

山と溪谷社

コロナ下での始動、初めてのへり出勤…。南アルプスにある「光小屋」に、山小屋主人として入ることになった小宮山花が、山小屋暮らしのあれこれを綴る。『BRAVO MOUNTAIN』掲載を大幅に加筆・修正。

朝日新聞 2025/06/21

2025:5./ 227p
978-4-635-33085-5

¥1,980〔税込〕



火葬と土葬〜日本人の死生観〜

岩田 重則 著

青土社

死者を誰が弔うのか。亡骸をどのように、どこに埋葬するのか。そして、墓はいつからいまのようになったのか。死と向き合ってきた人びとの実像を、文化や歴史のなかからすくいとり、その礎に横たわる死生観の核心に迫る。

朝日新聞 2025/06/21

2025:4./ 300p
978-4-7917-7709-9

¥3,080〔税込〕





昭和的

関川夏央 著

春陽堂書店

時は過ぎた。「昭和的センス」から逃れられない、時代遅れの著者のささやかな抵抗。辛口にして味わい深いエッセイ集。南伸坊による描き下ろしを含む絵 34 点も収録。『オリジナリ』連載他に加筆・修正。

朝日新聞 2025/06/21、読売新聞 2025/06/22

2025:3./ 214p
978-4-394-98016-2

¥2,420〔税込〕



明治維新という物語～政府が創る「国史」と地域の「記憶」～(中公新書 2855)

宮間 純一 著

中央公論新社

地域の記憶の前に、事実はいかにして物語になるのか。周防大島、飯能、秋田大館、佐倉など明治維新を記憶に刻む地域を追い、時の政治や地域社会の影響を受け、書き替えられてきた物語の軌跡を描く。

朝日新聞 2025/06/21、日本経済新聞 2025/06/21

2025:5./ 264p
978-4-12-102855-6

¥1,034〔税込〕



だれが戦争の後片付けをするのか～戦争後の法と正義～(ちくま新書 1863)

越智 萌 著

筑摩書房

ロシア・ウクライナ戦争をおもな例にとりながら、戦争中からはじまる、戦争犯罪の捜査・裁判、兵士の帰還、被害者への賠償といった戦後処理の実践を紹介する「終戦後」論。「戦争の後片付け」の発展と未来について考察する。

朝日新聞 2025/06/21、日本経済新聞 2025/06/21

2025:6./ 224p
978-4-480-07690-8

¥1,012〔税込〕



恋の収穫期

最果 タヒ 著

小学館

科学技術が東京だけに一極集中した 22 世紀。ここ軽井沢では、通信機器は使用不能。私が通う高校に、東京から転校生がやってきて…。近未来を舞台にした、新しい青春小説。『きらら』連載を改稿。

朝日新聞 2025/06/27

2025:5./ 203p
978-4-09-386709-2

¥1,760〔税込〕



運命の終い

奥田 亜希子 著

小学館

30 代で未亡人となった彩香。夫との恋を運命と信じていたがすべてを失い、「もう運命なんて信じない」と無味乾燥な毎日を送っていた。しかし突如、衝動的に「雑な大人の恋愛」をスタートすることに…。

朝日新聞 2025/06/28

2025:5./ 220p
978-4-09-386750-4

¥1,870〔税込〕





料理歳時記 改版(中公文庫)

辰巳 浜子 著

中央公論新社

朝日新聞 2025/06/28

2002:9./ 238p
978-4-12-204093-9

¥796〔税込〕



立ち読みの歴史(ハヤカワ新書 043)

小林 昌樹 著

早川書房

かつて洋行知識人は「海外に立ち読みなし」と証言した。日本特有の習俗「立ち読み」はいつ、どこで生まれ、庶民の読書文化を形作ってきたのか。これまで注目されてこなかった資料を発掘し、その歴史を描き出す。

2025:4./ 195p
978-4-15-340043-6

¥1,320〔税込〕



朝日新聞 2025/06/28



対岸の彼女(文春文庫)

角田 光代 著

文芸春秋

35歳の専業主婦・小夜子は、同じ年のベンチャー企業の女社長・葵にスカウトされ、ハウスクリーニングの仕事を始めるが……。多様化した現代を生きる女性の、友情と亀裂を描く感動の傑作長編にして、第132回直木賞受賞作。

2007:10./ 334p
978-4-16-767205-8

¥726〔税込〕



朝日新聞 2025/06/28



信仰(文春文庫 む 16-3)

村田 沙耶香 著

文藝春秋

「なあ、俺と、新しくカルト始めない？」 現実こそ正義、好きな言葉は「原価いくら？」の私が、カルト商法を始めようと誘われ…。信じることの危うさと切実に痺れる、短篇&エッセイ集。新たに3篇を加えて文庫化。

2025:5./ 215p
978-4-16-792361-7

¥715〔税込〕



朝日新聞 2025/06/28



近現代俳句(河出文庫 古典新訳コレクション お 49-1 36)

小澤 実 編

河出書房新社

井月、正岡子規、種田山頭火など、近現代に活躍した俳人50人と代表5句を精選。丁寧な口語訳と深い鑑賞と共に、写生俳句から文人俳句、自由律俳句、新興俳句まで、多彩な名句の世界へ誘う、入門にも最適のアンソロジー。

2025:5./ 187p
978-4-309-42180-3

¥880〔税込〕



朝日新聞 2025/06/28



至上の幸福をつかさどる家(アジア文芸ライブラリー)

アルンダティ・ロイ 著

春秋社

ゲストハウスの主となったヒジュラーのアンジュム、著者の幻影とも思われるティロー、そのパートナーのムーサー。現代インド史の出来事を寓話的に織り交ぜ、凝り固まった世界の周縁で生きる人々の姿を詩情あふれる文章で描く。

朝日新聞 2025/06/28

2025:5./ 497p
978-4-393-45508-1

¥4,180〔税込〕



崩壊概論(ちくま学芸文庫 シ 48-1)

E. M. シオラン 著

筑摩書房

明晰な懐疑による信念の解体と抛って立つ基盤の崩壊。否定の精神の顕揚と頹廃の擁護。思想家が 1949 年に母語であるルーマニア語ではなく、初めてフランス語で放った現代の黙示録。

朝日新聞 2025/06/28

2025:4./ 350p
978-4-480-51297-0

¥1,540〔税込〕



料理人という仕事(ちくまプリマー新書 462)

稲田 俊輔 著

筑摩書房

“幸せな料理人”になるためには、何が必要で、何を大事に、いかに考えて行動すべきか。料理人やあらゆる仕事で「独立」を果たしたい人に向けて語る仕事論。コラムや「料理人になるための Q&A」も収録。

朝日新聞 2025/06/28

2024:7./ 205p
978-4-480-68489-9

¥946〔税込〕



子どもも兵士になった〜沖縄・三中学徒隊の戦世〜

真鍋和子 著

童心社

1944 年 10 月。アメリカ軍の大規模な攻撃が行われ、沖縄県民の誰もが戦争に巻き込まれたのだと実感する。兵力を増強するため、沖縄・三中の三年生全員が呼び出され…。沖縄県北部の山岳での学徒兵たちの戦世の日々を描く。

朝日新聞 2025/06/28

2025:4./ 239p
978-4-494-02089-8
¥1,980〔税込〕



ムーア人による報告(エクス・リブリス)

レイラ・ララミ 著

白水社

1528 年にフロリダに上陸したカスティージャ王国の探検隊。新大陸で 8 年放浪しメキシコにたどり着いたとき、生存者は 1 人の奴隷を含むわずか 4 人で…。実在する報告書を元に、実在した奴隷の視点から冒険を再構築した物語。

朝日新聞 2025/06/28

2025:6./ 421p
978-4-560-09096-1
¥4,620〔税込〕





アリゲーターガーは、月を見る

山本悦子 著
理論社

ある晩、見覚えのある横顔を見かけ、何の気なしについて行った朔哉は、小学校の同級生だった航に再会する。航はお堀に住む巨大な外来魚アリゲーターガーに会いに来ていた…。『鬼ヶ島通信』連載を加筆し単行本化。

朝日新聞 2025/06/28

2025:5./ 186p
978-4-652-20685-0

¥1,650〔税込〕



シリアの秘密の図書館

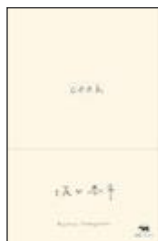
ワファー・タルノーフスカ 著
くもん出版

ヌールの暮らす町ダマスカスは、突然始まった内戦に揺れていた。地下シェルターでの避難生活の中で、ヌールといこのアミールは秘密の図書館を作ることを思いつき…。内戦下のシリアに実在した地下図書館から着想を得た物語。

朝日新聞 2025/06/28

2025:5./ 32p
978-4-7743-3853-8

¥1,760〔税込〕



cook 新装版

坂口恭平 著
晶文社

詳しいレシピも料理の作り方も載っていない、新世紀の料理書。色とりどりの料理と日々の思索を綴った写真付き料理日記「cook1、2」と、料理の起源へと立ち戻るエッセイ「料理とは何か」を収録する。

朝日新聞 2025/06/28

2024:10./ 156p
978-4-7949-7446-4

¥2,420〔税込〕



地図から消えた「沖縄農場」～空港建設で潰された千葉県三里塚の開拓村～ (論創ノンフィクション 062)

新垣譲 著
論創社

沖縄の人たちが開墾したことから「沖縄農場」と呼ばれた千葉県の村は、成田空港が開港し人知れず消えていった。生き残っている入植者への取材と資料をもとに、その全体像や、長きにわたった闘争を記述したノンフィクション。

朝日新聞 2025/06/28

2025:5./ 236p
978-4-8460-2473-4

¥2,200〔税込〕



カラー図鑑フェミナ・サピエンス全史～人類の進化と女性の祖先～

マルタ・ユストス 著
西村書店

女性の化石人類に秘められたエピソードとは？ さまざまな種の人類が生きていた 700 万年前から、わたしたちホモ・サピエンスというひとつの種が生き残っている現在まで、女性の目で見えた人類の進化を説明する。

朝日新聞 2025/06/28

2025:6./ 41p
978-4-86706-057-5

¥2,970〔税込〕





子規に至る～十九世紀俳句史再考～

秋尾 敏 著

新曜社

俳句は子規により、江戸期の「月並」俳諧を否定して確立されたと考えられてきたが、彼ほどそれらを徹底研究した人はいない。俳句史を、「国学」という当時の世界観を軸に書き直そうとする画期的試み。『俳壇』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/06/29

2025:3./ 278p
978-4-7885-1875-9

¥2,970〔税込〕



日系アメリカ人強制収容からの<帰還>～人種と世代を超えた戦後補償運動～

油井 大三郎 著

岩波書店

第二次大戦中、強制収容所に送られた日系アメリカ人。極小マイノリティであるばかりか、収容体験を葬り去るべき「トラウマ」として抱え込んだ彼らがなぜ、謝罪と補償(リドレス)を実現できたのか。その過程を問い直す。

東京・中日新聞 2025/06/01

2025:2./ 278p
978-4-00-061682-9

¥3,190〔税込〕



潮音<第2巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

薬売りとして一本立ちした川上弥一は、京に拠点を移す。寺田屋事件、池田屋事件と血なまぐさい騒動が続く京で、弥一は旧知の薩摩藩士・園田矢之助らと呼応しながら、戦乱の町を奔走し…。『文学界』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/06/01

2025:2./ 419p
978-4-16-391947-8

¥2,420〔税込〕



潮音<第3巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

大政奉還により、幕府から新政府に権力は移ろうとしていた。医術の世界にも西洋の薬が流入。川上弥一は新時代に対応し、富山の薬売りを近代的な「カンパニー」に脱皮させようとして…。『文学界』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/06/01

2025:3./ 453p
978-4-16-391960-7

¥2,420〔税込〕



潮音<第4巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

いよいよ時代は本格的に明治へ。文明開化で庶民の生活も大きく変化する。一方で、西南戦争では若き旧薩摩藩士たちが痛ましい死を遂げていく。そして川上弥一の身辺にも、大きな出来事が起き…。『文学界』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/06/01

2025:4./ 405p
978-4-16-391972-0

¥2,420〔税込〕





スティグリッツ資本主義と自由

ジョセフ・E・スティグリッツ 著

東洋経済新報社

超富裕層による搾取をどう食い止めるのか？ トランプ後の世界はどこへ向かうのか？
公正で自由な社会を推進するのはどのような経済なのか？ ノーベル賞経済学者が、こ
れからの経済社会に関するビッグピクチャーを描く。

東京・中日新聞 2025/06/01、読売新聞 2025/06/29

2025:6./ 512p
978-4-492-31564-4

¥3,080〔税込〕



潮音<第1巻>

宮本 輝 著

文藝春秋

幕末の越中富山に生まれた川上弥一は、藩を挙げての産業・売薬業に身を投じる。や
がて薩摩藩を担当する行商人となった弥一は、じょじょに薬売りと薩摩藩をつなぐ
「秘密」に気づき始める…。『文學界』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/06/01、毎日新聞 2025/06/07

2025:1./ 485p
978-4-16-391936-2

¥2,420〔税込〕



乱歩と千畝〜RAMPO と SEMPO〜

青柳 碧人 著

新潮社

巨匠・江戸川乱歩と、ユダヤ人を救った外交官・杉原千畝。まだ何者でもなかったふ
たりは希望と不安を抱え、浅草の猥雑な路地を歩き語り合い…。斬新な発想で描く波
瀾万丈の物語。『yomyom』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/06/07

2025:5./ 378p
978-4-10-356271-9

¥2,420〔税込〕



ユビキタス

鈴木 光司 著

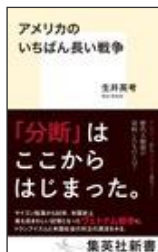
KADOKAWA

原因不明の連続突然死事件を調べる探偵と異端の物理学者は、「ヴォイニッチ・マニ
ュスクリプト」と事件との関連性に気づく。だがすでに、多くの住民の命が奪われは
じめていた…。『電気新聞』連載に書き下ろしを加え単行本化。

東京・中日新聞 2025/06/08

2025:3./ 438p
978-4-04-115982-8

¥2,035〔税込〕



アメリカのいちばん長い戦争(集英社新書 1262)

生井 英考 著

集英社

アメリカ史上最長の長い戦争だったヴェトナム戦争と、新たな最長の戦争となったア
フガン戦争。ふたつの「いちばん長い戦争」のあいだに起こったこと、残されたもの
は何か。現代アメリカの分断の源流を新たな角度から直視する。

東京・中日新聞 2025/06/08

2025:5./ 283p
978-4-08-721362-1

¥1,100〔税込〕





流星と吐き気

金子 玲介 著

講談社

偶然の再会を「運命」と勘違いして、安全圏から告白をしようとするアーティストを描いた表題作をはじめ、仄暗い気持ちが過去を呼び戻してしまう 5 人の物語を収録した、嫌愛短編集。

東京・中日新聞 2025/06/14、産経新聞 2025/06/15

2025:5./ 236p
978-4-06-539422-9

¥1,980〔税込〕



啓蒙の海賊たち～あるいは実在したリバタリアの物語～

デヴィッド・グレーバー 著

岩波書店

啓蒙思想はヨーロッパ貴族のサロンではなく、マダガスカル海賊と先住民女性たちの社会実験から生まれたのではないか。海賊王国の「本当の」歴史をたどり直し、自由、国家、民主主義をめぐる常識を覆す。著者生前最後の書。

東京・中日新聞 2025/06/15

2025:4./ 230p
978-4-00-061685-0

¥2,640〔税込〕



谷根千、ずーっとある店

森まゆみ 著

朝日新聞出版

谷中・根津・千駄木に長く続くお店、工房など 60 軒以上を訪ねる。これからもずっとご近所に居続けてほしい、そんなお店と家族のライフヒストリー。『仕事旅行』連載に書き下ろしを加え再編集。

東京・中日新聞 2025/06/15

2025:3./ 590p
978-4-02-252042-5

¥2,860〔税込〕



どうせそろそろ死ぬんだし(宝島社文庫 このミス大賞 C こ-24-1)

香坂 鮎 著

宝島社

探偵業を営む七隈は、余命宣告された人々が集う交流会のゲストとして山奥の別荘に招かれた。翌朝、参加者の一人が不審な死を遂げる。自然死か殺人か。殺人であれば、余命わずかな人間をなぜわざわざ殺したのか-。

東京・中日新聞 2025/06/21

2025:3./ 345p
978-4-299-06479-0

¥799〔税込〕



アンチ・アンチエイジングの思想～ポーヴォワール『老い』を読む～

上野千鶴子 著

みすず書房

人はなぜ老いを恐れるのか。ポーヴォワールの「老い」を通して、あらゆる角度から老いの現実を照らし、自己嫌悪させる社会のからくりを暴く。老い衰え、自立を失った人間が生きる社会を構想する。『みすず』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/06/22

2025:4./ 317p
978-4-622-09730-3

¥2,970〔税込〕





凍れる美学～定家と和歌についての覚え書き～(Pieria Books)

沓掛 良彦 著

東京外国語大学出版会

ヨーロッパ詩の研究者が、古今に冠絶した稀世の手練れ、藤原定家の「歌作り」を、和歌史という限定されたコンテキストから解き放ち、東西古典詩という広い世界へと導く新しい和歌論。

東京・中日新聞 2025/06/22

2025:3./ 310p
978-4-910635-15-6

¥2,860〔税込〕



残光そこにありて

佐藤 零 著

中央公論新社

聡明にして厳格、されど決して優しさを失わぬ幕臣、小栗忠順。幕末動乱期、国の存亡に際し誰もが保身を考える中、彼だけは 100 年先の人々のことを想っていた。歴史小説の次世代を担う俊英が、謎多き幕臣の生涯に迫る。

東京・中日新聞 2025/06/28

2025:6./ 300p
978-4-12-005922-3

¥2,310〔税込〕



「プロレススーパーstar列伝」秘録

原田 久仁信 著

文藝春秋

プロレスブームに沸く 1980 年代前半、少年たちの心を驚嘆みにした漫画「プロレススーパーstar列伝」。この伝説的作品の制作秘話を、作画を担当した原田久仁信が初めて明かす。描き下ろし漫画も収録。

東京・中日新聞 2025/06/28

2024:11./ 254p
978-4-16-391921-8

¥1,760〔税込〕



詩人/人間の悲劇～金子光晴自伝的作品集～(ちくま文庫 か 47-4)

金子 光晴 著

筑摩書房

妻と共に海外へ旅立ち、帰国後もあらゆる権力からの支配を厭った金子光晴。反骨の詩人は、母国を批判し、そして案じた。類なき生涯で眼にした世界の痛みと光を鮮やかに綴る。自叙伝「詩人」と自伝的詩集「人間の悲劇」を併録。

東京・中日新聞 2025/06/28

2023:8./ 426p
978-4-480-43877-5

¥1,320〔税込〕



ユーモアの鎖国 新版(ちくま文庫 い 7-4)

石垣 りん 著

筑摩書房

14 歳から銀行で働き、焼けた東京で詩を書いた。戦後日本を代表する詩人・石垣りんが、転換期にある国を見つめ、人ひとりの自由と時を重ねる日々の強さを真摯かつ鮮やかに綴った自伝的エッセイ集を復刊。

東京・中日新聞 2025/06/28

2025:6./ 308p
978-4-480-44040-2

¥990〔税込〕





高所綱渡り師たち～残酷のユートピアを生きる～

石井 達朗 著

青弓社

高層ビル間に張ったロープの上を、長く重いバランス棒だけを抱えて一步一步進む綱渡り師たち。彼ら/彼女らはなぜ挑戦するのか。どのようにして墜落の恐怖を超えられるのか。勇者たちの生きざまを丹念に描くドキュメンタリー。

東京・中日新聞 2025/06/29

2025:4./ 252p
978-4-7872-7473-1

¥3,740〔税込〕



カニ先生のタコペディアにつぼん

可児 弘明 著

岩波書店

あのひょっとこ口に向こう鉢巻きはいつから？ タコには霊力がある？ 日本人はいつから食していたのか？ 全国津々浦々集め続けた、タコと日本人をめぐるタコ談義の集成。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 212p
978-4-00-061692-8

¥2,200〔税込〕



ケアと編集(岩波新書 新赤版 2063)

白石 正明 著

岩波書店

与えられた問いの外に出てみれば、弱さは克服すべきものじゃなく、存在の「傾き」として不意に輝きだす-。医学書院「ケアをひらく」シリーズの名編集者が、自分を変えずに生きやすくなる逆説の自己啓発術を紹介する。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 254p
978-4-00-432063-0

¥1,056〔税込〕



もしもこの世に對話がなかったら。～オープンダイアログ的對話実践を求めて～

横道 誠 著

KADOKAWA

對話にルールを持ちこんだらうまく行く！自助グループを主宰する著者が、そこで提供しているオープンダイアログ的對話実践の実情を、フィクションを交えながら紹介する。

読売新聞 2025/06/01

2025:2./ 199p
978-4-04-115365-9

¥1,650〔税込〕



文学を探せ(講談社文芸文庫 つL3)

坪内 祐三 著

講談社

言葉と肉体、表現のリアルはどこに？ 1999 年半ばから 2000 年末までに至る間、文学の価値と面白さを本気で追求してきた著者が、全力で現代日本の文学状況と向き合っ

読売新聞 2025/06/01

2025:5./ 380p
978-4-06-539480-9

¥2,750〔税込〕





記念日

青山 七恵 著

集英社

「早く年を取りたい」と願う 23 歳のミナイと、ガタがきはじめた肉体に翻弄される 42 歳のソメヤのルームシェア生活が始まった。突然、ミナイから不思議な提案がなされて…。『すばる』連載を単行本化。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 342p
978-4-08-771895-9

¥2,200〔税込〕



加藤友三郎〜政党政治を見透した軍人政治家〜(中公選書 158)

手嶋 泰伸 著

中央公論新社

日清戦争では砲術家、日露戦争では連合艦隊参謀長として名望を集めた加藤友三郎。だが第一次大戦後、軍縮支持へと舵を切る。戦前唯一、国際的視野から軍部大臣への文官任用さえ模索した軍人政治家の生涯を描く。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 240p
978-4-12-110160-0

¥1,925〔税込〕



沖縄決戦〜高級参謀の手記〜(中公文庫 や 59-1)

八原 博通 著

中央公論新社

太平洋戦争時、日本で唯一地上戦が展開された沖縄戦。18 万の米上陸部隊を迎え撃ち潰滅した第 32 軍司令部唯一の生き残りである著者が、苛烈な戦いの経緯を描くとともに、現代日本人にも通じる陸軍の宿痼を鋭く指摘する。

読売新聞 2025/06/01

2015:5./ 523p
978-4-12-206118-7

¥1,595〔税込〕



わが人生の断片<上>(中公文庫 し 23-4)

清水幾太郎 著

中央公論新社

夥しい人命が失われ、富が空しくなり、名誉と独立とを奪われ、ただ世界に向って罪だけを負うことで、今、戦争が終わる。ビルマへ従軍、帰国後に読売新聞社論説委員として敗戦の日を迎えた、戦後を代表する社会学者の回想録。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 359p
978-4-12-207643-3

¥1,430〔税込〕



わが人生の断片<下>(中公文庫 し 23-5)

清水幾太郎 著

中央公論新社

歴史は、卑怯であったものも、卑怯でなかったものも、一緒に押し込んで新しい戦争へ向って流れ落ちていった。卒論をもとに『思想』で論壇デビューを飾った戦前から、戦後の安保闘争へ。戦後を代表する社会学者の回想録。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 373p
978-4-12-207644-0

¥1,430〔税込〕





政党の誕生～近代日本における複数政党存立の基礎～

松本 洵 著

東京大学出版会

政党とは何か。政党はいかにあるべきか。明治日本で政党が誕生し、帝国議会開設を経て、政党が政治において重要な役割を果たす主体となっていく過程を、当時の新聞や全国の政治家らの書簡や日記などの史料を博搜して描き出す。

読売新聞 2025/06/01

2025:3./ 292p
978-4-13-036297-9

¥7,150〔税込〕



仏教は、いかにして多様化したか～部派仏教の成立～(教養・文化シリーズ 世界史のリテラシー)

佐々木 閑 著

N H K 出版

釈迦が説いた「自己鍛錬」のための仏教は、いつ、どのようにして部派に分裂し、なぜ「衆生救済」が目的の大乗仏教に変容したのか。日本仏教が「特異な仏教」とされる理由は-。科学にも通じる碩学が仏教界の大いなる謎に迫る。

読売新聞 2025/06/01

2025:2./ 167p
978-4-14-407324-3

¥1,210〔税込〕



西部邁～保守のロゴスとパトス～

中島 岳志 編

河出書房新社

西部邁はどのような思想家だったか。未公開の生原稿やノート、講演記録など貴重な資料とともに振り返る。西部邁と吉本隆明や西尾幹二、柄谷行人との対談、論考も収録。

読売新聞 2025/06/01

2025:5./ 295p
978-4-309-22961-4

¥3,520〔税込〕



日本経済に追い風が吹く (幻冬舎新書 た-27-1)

竹中平蔵 著

幻冬舎

失われた 30 年の元凶は何なのか? 政治と政策、政策と経済はどうからみあい、どうしたらうまく機能するのか? 理論と実体験による分析を踏まえ、デジタル化、東京再開発等、日本経済を復活させるヒントを示す。

読売新聞 2025/06/01

2025:4./ 284p
978-4-344-98767-8

¥1,100〔税込〕



きみのお金は誰のため～ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」～

田内 学 著

東洋経済新報社

「お金自体には価値がない」「お金で解決できる問題はない」「みんなでお金を貯めても意味がない」 お金の謎を解いたとき、世界の見え方が変わった-。学校では教えてくれない「お金と社会の本質」がわかる経済教養小説。

読売新聞 2025/06/01

2023:10./ 247p
978-4-492-04735-4

¥1,650〔税込〕





テオドラ～女優からビザンツ皇后、聖人へ～

デイヴィッド・ポッター 著

白水社

6世紀、娯楽産業界とキリスト教界の人脈を持って夫ユスティニアヌスを支えたビザンツ皇后テオドラ。多くの障害を乗り越えて頂点に立ち、女性や子供のための画期的な法律を制定した女性政治家の実像を探る。

読売新聞 2025/06/01

2025:3./ 348p
978-4-560-09159-3

¥4,400〔税込〕



日本における「近代政党」の誕生～戦前期島根県における憲政会・民政党勢力の展開～

杉谷 直哉 著

法律文化社

「近代政党」の基盤たる地方組織はいかに形成されたのか。島根県に焦点を当て、若槻礼次郎の個人後援会を中心に憲政会・民政党の組織網整備の経緯を解明。戦前の政治家と社会の関係に新たな視座を与える。

読売新聞 2025/06/01

2025:3./ 296p
978-4-589-04399-3

¥7,040〔税込〕



洛中洛外図屏風歴博甲本～絵になる都～(芸術選書)

泉万里 著

中央公論美術出版

国立歴史民俗博物館所蔵の洛中洛外図屏風(通称・歴博甲本)に描かれたのは、祇園会も滞りなく行われ、洛中を歩く人々の足取りも軽い平穏息災な都の1年である。この歴博甲本の特徴を絵画史の視点から捉え直す。

読売新聞 2025/06/01

2025:3./ 200p
978-4-8055-1506-8

¥3,300〔税込〕



谷口雅春とその時代(法蔵館文庫 お6-1)

小野 泰博 著

法蔵館

新宗教「生長の家」創始者・谷口雅春。その誕生から彼を崇敬する信徒集団の形成に至るまでの思想遍歴を、同時代の人々や、時代を彩る諸思想との関わりから鮮やかに描き出した評伝。

読売新聞 2025/06/01

2025:3./ 381p
978-4-8318-2691-6

¥1,650〔税込〕



最悪の相棒

伏尾 美紀 著

講談社

少年時代に姉がストーカーに殺された男、潮崎。潮崎のせいで警察官だった父が死んだと思っている女性刑事の広中。広中の、捜査一課にいきたいという夢がかなう。しかし、捜査一課での相棒は潮崎だった…。

読売新聞 2025/06/01、産経新聞 2025/06/08

2025:4./ 357p
978-4-06-535935-8

¥2,310〔税込〕





文品〜藤沢周平への旅〜

後藤正治 著

中央公論新社

歳月が持つ哀しみ、人生への情熱、喪失感-。時代(歴史)小説を舞台に、静謐な文体で人の世の「普遍」を描き続けた作家、藤沢周平。ノンフィクションの名手が、その人と作品の魅力に迫る。『中央公論』連載を書籍化。

読売新聞 2025/06/01、東京・中日新聞 2025/06/08

2025:3./ 333p
978-4-12-005904-9

¥2,640〔税込〕



踊りつかれて

塩田 武士 著

文藝春秋

不倫を報じられて苛烈な誹謗中傷を受け、自ら死を選んだお笑い芸人。一方、伝説の歌姫は写真週刊誌のデタラメに踊らされ、人前から姿を消した。彼らが目にした絶望とは-。『週刊文春』連載を改稿し単行本化。

読売新聞 2025/06/01、毎日新聞 2025/06/28

2025:5./ 471p
978-4-16-391980-5

¥2,420〔税込〕



<ひとり死>時代の死生観〜「一人称の死」とどう向き合うか〜(朝日選書 1049)

小谷みどり 著

朝日新聞出版

高齢化、葬式・墓の簡素化、家族関係の希薄化とともに変化してきた現代社会の死生観。多くの人が不安視する「ひとり死」について、意識調査結果を分析し浮き彫りにする。死生観を醸成する一助となる一冊。

読売新聞 2025/06/08

2025:4./ 208p
978-4-02-263140-4

¥1,760〔税込〕



リヴァプールのパレット

大崎 善生 著

KADOKAWA

早世した妹と余命宣言を受けた自分をつなぐことで見えてくる人間の孤独、湧きあがる思い…。がん闘病中に書き上げた表題作、単行本初収録の短編、藤井聡太王位の就位式祝辞を収録。『小説野性時代』掲載などを単行本化。

読売新聞 2025/06/08

2025:3./ 177p
978-4-04-115952-1

¥1,870〔税込〕



養生する言葉

岩川 ありさ 著

講談社

大江健三郎、ハン・ガン、津村記久子、文月悠光、「ブルーロック」「君と宇宙を歩くために」…。文学研究者が会った、人生に寄り添ってくれる「言葉」と「物語」。『群像』連載に加筆修正。

読売新聞 2025/06/08

2025:2./ 250p
978-4-06-538445-9

¥1,760〔税込〕





エステルの手紙教室

セシル・ピヴォ 著

講談社

北フランスのルールで書店を営むエステルは、亡父を偲んで手紙教室を開くことにした。受講者を募る新聞広告を出すと、孤独な老婦人や進路に悩む青年など、性別も年齢も異なる 5 人から応募があって…。言葉の力を賛美した小説。

読売新聞 2025/06/08

2025:5./ 293p
978-4-06-538486-2

¥2,420〔税込〕



ゴリラ裁判の日(講談社文庫 す 53-1)

須藤 古都離 著

講談社

ローズはとても賢く、言葉を理解し人間と「会話」ができるゴリラだ。人間の子供を助けるために、という理由で、夫ゴリラが射殺される。そしてローズは、人間に戦いを挑む。力ではなく、知恵と勇気を武器に。法廷で。

読売新聞 2025/06/08

2025:5./ 397p
978-4-06-539247-8

¥891〔税込〕



そこに工場があるかぎり(集英社文庫 お 67-5)

小川 洋子 著

集英社

国内唯一の競技用ボート、ベビーカー、鉛筆…。日本の繊細でユニークなものづくりの愛おしさと本質、携わる人々の思いを伝える珠玉の工場見学エッセイ。山口硝子製作所、桑野造船など全 6 社の訪問記を収録。

読売新聞 2025/06/08

2025:5./ 171p
978-4-08-744773-6

¥616〔税込〕



おこだでませんように

くすのき しげのり 著

小学館

ぼくはいつも、家でも学校でもおこられる。どないしたらおこられへんのやろ。どないしたらほめてもらえるのやろ。ぼくは「悪い子」なんやろか…。そしてぼくは、たなばたさまにあるお願いをした。

読売新聞 2025/06/08

2008:6./ 32p
978-4-09-726329-6

¥1,650〔税込〕



モルグ街の殺人・黄金虫(新潮文庫)

エドガー・アラン・ポー 著

新潮社

読売新聞 2025/06/08

2009:4./ 280p
978-4-10-202805-6

¥605〔税込〕





ミミのこと～他二篇～(中公文庫 た 24-6)

田中小実昌 著

中央公論新社

パンパン狩りから逃げてきた耳の不自由な女性との純愛を描いた表題作はじめ、戦災孤児を集めて暮らす「浪曲師朝日丸の話」や「自動巻時計の一日」を収録。戦後の混乱期を生きる人々を、鋭くも温かい筆致で描く。

読売新聞 2025/06/08

2025:2./ 356p
978-4-12-207621-1

¥1,210〔税込〕



温泉小説

朝比奈あすか 著

光文社

年齢も性別も境遇も違う主人公たちが、思い惑い人生の苦みを抱えながら温泉地へと向かう。その湯は強ばった心さえ解く力がある…。幸せな孤独と満ち足りた解放を紡ぐ6つの温泉旅。『小説宝石』掲載他を加筆修正。

読売新聞 2025/06/08

2025:4./ 284p
978-4-334-10623-2

¥1,870〔税込〕



学校に行かなかった僕が、あのころの自分に今なら言えること

石井しこう 著

大和書房

学校のこと、家族のこと、勉強のこと、進路のこと…。不登校者のホンネを知る著者が、不登校をした人やその保護者などへの取材を通して見つけた、今悩んでいる人へのメッセージを綴る。

読売新聞 2025/06/08

2025:5./ 142p
978-4-479-78620-7

¥1,650〔税込〕



ハチは心をもっている～1匹が秘める驚異の知性、そして意識～

ラース・チットカ 著

みすず書房

数を数え、道具を使い、ほかの個体から問題解決の方法を盗みさえる。ハチは「群知能」だけでなく、1匹1匹も高度に進化した心をもっていた！ハナバチの認知研究の権威が、その驚くべき精神生活を明らかにする。

読売新聞 2025/06/08

2025:2./ 352p
978-4-622-09767-9

¥3,960〔税込〕



食文化からブラジルを知るための55章(エリア・スタディーズ 214)

岸和田 仁／麻生 雅人／山本 綾子 著

明石書店

世界の中で最も劇的に多人種・多民族的な国となったブラジルには多様な食文化がある。シュラスコやフェイジョアードといった代表的な料理だけでなく、基層の食文化と移民の食文化、ブラジルの食習慣や酒場文化なども紹介する。

読売新聞 2025/06/08

2025:5./ 376p
978-4-7503-5942-7

¥2,200〔税込〕





エッセンシャル思考～最少の時間で成果を最大にする～

グレッグ・マキューン 著

かんき出版

急激に増えた選択肢のなかで大事なものが見えにくくなってはいないか？ 本当に重要なことを見極め、それを確実に実行するための方法論、エッセンシャル思考の考え方と、仕事や用事を「正しく」減らすためのしくみを紹介する。

読売新聞 2025/06/08

2014:11./ 320p
978-4-7612-7043-8

¥1,760〔税込〕



障害のある10代のための困りごと解決ハンドブック～あなたがあなたらしく生きるためのヒント～

野口晃菜／松波めぐみ 著

現代書館

障害のある10代の困りごととその解決方法を、学校・友だち・恋愛・進路進学など8つのテーマにわけて掲載。障害のある先輩たちの体験談や、相談できる場所も紹介する。すべての漢字にルビ付き&さまざまな障害種にも対応。

読売新聞 2025/06/08

2025:4./ 254p
978-4-7684-3611-0

¥2,200〔税込〕



みんなの「今」を幸せにする学校～不確かな時代に確かな学びの場をつくる～

遠藤 洋路 著

時事通信出版局

「将来」から「今」へバランスをシフトすれば、教育はかならず変わる！ 子供も参画する校則改革など、大胆な教育改革で注目される熊本市の教育長が、その基本理念や実践、未来の学校と公教育の姿を提示する。

読売新聞 2025/06/08

2022:3./ 254p
978-4-7887-1804-3

¥1,870〔税込〕



すぐ役に立つものはすぐ役に立たなくなる

荒俣宏 著

プレジデント社

「好き」「無駄」「酔狂」「無意味」を究めれば、唯一無二の「生き抜く力」が手に入る。競争なしで一人勝ちできる、人生が逆転する秘密の勉強法とは？ 持続的な収入と幸福感につながる、体験的「無敵」の成功法則を紹介する。

読売新聞 2025/06/08

2025:3./ 325p
978-4-8334-4073-8

¥1,980〔税込〕



石炭挽歌～NHK 札幌放送局<炭鉱事故>担当アナウンサーの記録～

末利光 著

寿郎社

日本のエネルギー政策の犠牲者たちを私は決して忘れない。北海道の炭鉱で事故が頻発した昭和40年代、事故現場から実況中継をした元 NHK アナウンサーが、当時綴った街と人と企業の姿の記録。

読売新聞 2025/06/08

2025:4./ 259p
978-4-909281-69-2

¥2,530〔税込〕





みえないもの

イリナ グリゴレ 著

柏書房

娘たちと過ごす青森の日々、ふとよみがえる故郷ルーマニアの記憶、そして、語られてこなかった女たちの物語-。虚実を超えて、新たな地平を切り開く渾身のエッセイ集。『水牛』ほか掲載を加筆し書籍化。

2025:4./ 237p
978-4-7601-5630-6

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/06/08、東京・中日新聞 2025/06/29



「国語」と出会いなおす

矢野利裕 著

フィルムアート社

国語にとって文学とはなにか。文学にとって国語とはなにか。批評家でもある現役国語教師が、国語と文学の歩んできたビミョウな関係を紐解きながら、「文学/国語」のありかたを考察する。芥川賞作家・滝口悠生との対談も収録。

2025:4./ 293p
978-4-8459-2425-7

¥2,530〔税込〕



読売新聞 2025/06/08、日本経済新聞 2025/06/21、毎日新聞 2025/06/28



さよなら未来～エディターズ・クロニクル 2010-2017～

若林 恵 著

岩波書店

人文知をコンパスに、勇気を胸に、地図なき未来によりよく迷え! 『WIRED』日本版・前編集長として、21世紀の最前線に触れてきた著者の思索と発信の軌跡を集成。『WIRED』ほか掲載を書籍化。

2018:4./ 511p
978-4-00-023070-4

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



ブランド～価値の創造～(岩波新書 新赤版 634)

石井 淳蔵 著

岩波書店

単なる商品名にすぎないブランドが、なぜ価値をもつのか。そして、究極のブランドとは何か。ブランドの誕生と成長のダイナミズムを解き明かす価値創造のマーケティング論。

1999:9./ 222p



読売新聞 2025/06/15



社会的共通資本(岩波新書 新赤版 696)

宇沢 弘文 著

岩波書店

混乱と混迷の現代を切り拓く展望を開いていく、著者の思索の結晶。

2000:11./ 250p
978-4-00-430696-2

¥1,056〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



日本財政転換の指針(岩波新書 新赤版 1403)

井手 英策 著

岩波書店

財政を「再建」することが、本当に社会に共通の善なのか？ 赤字の原因を日本社会の構造から解き明かし、「ユニバーサリズム」の視点から、受益と負担の望ましいあり方、新しい財政のグランドデザインを提言する。

読売新聞 2025/06/15

2013:1./ 232p



生きづらい明治社会～不安と競争の時代～(岩波ジュニア新書 883)

松沢 裕作 著

岩波書店

景気の急激な変動、出世競争、貧困…。さまざまな困難と向き合いながら、明治時代の人々はどのように生きたのか？ 不安と競争をキーワードに、明治という社会を読み解く。

読売新聞 2025/06/15

2018:9./ 176p

978-4-00-500883-4

¥968〔税込〕



なぜヒトだけが幸せになれないのか(講談社現代新書 2771)

小林 武彦 著

講談社

ヒトの幸せの妨げになっているのは「遺伝子」？「生きていること」を生物が持つ「最大の価値」と捉え、その状態を「幸せ」＝「死からの距離が保てている状態」と定義。生きものにとっての幸せの本質とは何かを考察する。

読売新聞 2025/06/15

2025:4./ 213p

978-4-06-539089-4

¥1,034〔税込〕



世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド<上> 新装版(新潮文庫 む-5-4)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/06/15

2010:4./ 471p

978-4-10-100157-9

¥935〔税込〕



世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド<下> 新装版(新潮文庫 む-5-5)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/06/15

2010:4./ 410p

978-4-10-100158-6

¥825〔税込〕



世界一わかりやすい量子力学(ハヤカワ文庫 NF 616)

アントン・ツァイリンガー 著

早川書房

史上初めて量子テレポーテーションの実験に成功し、2022年にノーベル物理学賞を受賞した著者が、難解で複雑な量子の世界を、様々な実験を交えながらストーリー仕立てでやさしく解説。

読売新聞 2025/06/15

2025:5./ 479p

978-4-15-050616-2

¥1,628〔税込〕





人形のアルファベット

カミラ・グルドローヴァ 著

河出書房新社

女から求められ芸術のミューズである八本脚の男が、ある日美しいミシンと出会い...。「蜘蛛の手記」など全 13 編を収録。ミシン、人形、缶詰、蜘蛛などのモチーフで緩やかにつながる、日常をグロテスクに彩る短編集。

読売新聞 2025/06/15

2025:5./ 217p
978-4-309-20923-4

¥2,750〔税込〕



「その日暮らし」の人類学〜もう一つの資本主義経済〜(光文社新書 829)

小川 さやか 著

光文社

「貧しさ」がないアマゾンの先住民、気軽に仕事を転々とするアフリカ都市民、海賊行為が切り開く新しい経済・社会...。気鋭の文化人類学者が、「その日暮らし」という生き方を明らかにする。『小説宝石』連載を加筆・修正。

読売新聞 2025/06/15

2016:7./ 222p
978-4-334-03932-5

¥814〔税込〕



貨幣論(ちくま学芸文庫)

岩井 克人 著

筑摩書房

貨幣とは何か?おびただしい解答があるこの命題に、『資本論』を批判的に解読することにより最終解答を与えようとするスリリングな論考。

読売新聞 2025/06/15

1998:3./ 256p
978-4-480-08411-8

¥990〔税込〕



知識創造企業 新装版

野中 郁次郎、竹内 弘高 著

東洋経済新報社

日本企業のイノベーションを「知識」の重要性から説いた経営学の世界的名著。情報処理パラダイムに代わり、「知識創造」で組織のマネジメントのすべての分野を再検討・再構築しようという新たな経営学パラダイムを提唱する。

読売新聞 2025/06/15

2020:12./ 512p
978-4-492-52232-5

¥2,860〔税込〕



グレン・グールド著作集

ティム・ページ 編

グレン・グールド 著

みすず書房

奇才ピアニストとして知られたカナダの知識人、グレン・グールド。彼が残した主な論考、随想、録音解説、書評等を「音楽」「パフォーマンス」「メディア」などに分けて収録する。

読売新聞 2025/06/15

2025:4./ 712p
978-4-622-09770-9

¥7,920〔税込〕





すごい動物学～生き物たちから学ぶ明日を生きるヒント～(ヤマケイ文庫)

新宅 広二 著

山と溪谷社

演技をするへびがいる、ゴリラは実はとても繊細…。いろいろな動物のすごい生態や意外な性質、勝手に誤解していた習性など、動物に関する人間たちの思い込みをくつがえす、楽しい知識を満載。

2025:3./ 221p
978-4-635-05013-5

¥1,100〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



古代エジプト全史 第2版

河合 望 著

雄山閣

旧石器時代から、紀元後4世紀にキリスト教が普及したローマ時代までのエジプトの歴史を、世界の研究成果を網羅し、時代順にわかりやすく解説する。初版後の最新の情報に対応した第2版。

2025:4./ 328p
978-4-639-03040-9

¥2,640〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



性/生をめぐる闘争～台湾と韓国における性的マイノリティの運動と政治～

福永 玄弥 著

明石書店

性的マイノリティの生をめぐる政治を問う試み。台湾と韓国、両者の比較、さらには「東アジア」という枠組みをとおして、性/生をめぐる政治を考察する。

2025:2./ 462p
978-4-7503-5868-0

¥4,180〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



生き方～人間として一番大切なこと～

稲盛 和夫 著

サンマーク出版

人間として正しい生き方を志し、ひたすら貫きつづける。それが、いま私たちにもっとも求められている。混迷の時代に打ち込む、「生き方」という一本の杭。京セラとKDDIを創業した著者が語りつくす、人生哲学の集大成。

2004:7./ 246p
978-4-7631-9543-2

¥1,870〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



リバーズ・エッジ

岡崎 京子 著

宝島社

岡崎京子の最高傑作として世代を超えた感動と共感を呼ぶ名作「リバーズ・エッジ」がオリジナルの装丁で復刻。巻末に宮沢章夫によるあとがきも収録。

2015:6./ 232p
978-4-8002-4238-9

¥979〔税込〕



読売新聞 2025/06/15



渋沢栄一とフランス～日仏会館創立百周年記念論集～(日仏会館ライブラリー 4)

三浦信孝 編
水声社

若き日にフランスに学び、近代日本の制度設計者としての功績を残した渋沢栄一は、日本とフランスの学術文化交流の礎も築いていた。その軌跡を、宗教倫理・社会思想・民間外交の諸相からダイナミックに描き出す。

読売新聞 2025/06/15

2025:3./ 326p
978-4-8010-0839-7
¥4,950〔税込〕



死が怖い人へ(SB 新書 685)

久坂部羊 著
S Bクリエイティブ

だれにでもいつか必ず訪れる死。かつては自身も死を恐れ、多くの死生を見つめてきた医師兼作家が、死に備え、人生を楽しむために、死の恐怖の克服と解放の道を探る。

読売新聞 2025/06/15

2025:2./ 222p
978-4-8156-2649-5
¥1,045〔税込〕



天皇の軍事輔弼体制～元帥と戦争指導の政治史～

飯島 直樹 著
名古屋大学出版会

「輔弼」として知られる天皇への助言システムは、昭和期までは有効に機能し、軍統制の一大焦点となっていた。多角的な輔弼構造の形成と衰微を実証し、明治の建軍から2度の大戦までの天皇-軍関係の核心を解明する。

読売新聞 2025/06/15

2025:3./ 368p
978-4-8158-1192-1
¥7,480〔税込〕



知れば知るほどおもしろいお米のはなし～ルーツから歴史、抱える課題まで～(知的生きかた文庫 か 77-1)

柏木 智帆 著
三笠書房

コシヒカリが圧倒的な人気を誇る理由とは？「減反廃止」は本当？農家も輸入米を食べていた？お米を偏愛する著者が、お米の歴史・品種・文化や、驚きのエピソードを語る。

読売新聞 2025/06/15

2025:5./ 205p
978-4-8379-8923-3
¥847〔税込〕



世界のお弁当とソトごはん

岡根谷実里 著
三オブックス

“世界の台所探検家”として100以上の台所を巡った著者が、実体験をもとに、携帯食、テイクアウト、屋台食など、生活スタイルの違いによってさまざまな様相をみせる世界中のお弁当とソトごはんを紹介。再現レシピも掲載。

読売新聞 2025/06/15

2025:4./ 199p
978-4-86673-447-7
¥2,200〔税込〕





「小さな国」からの問いかけ～チェコとスロヴァキア歴史と文化～

長與 進、篠原 琢、中澤 達哉 編

続文堂出版

スロヴァキアもチェコも実はけっして「小さな国」ではない。それでも「小さな国民」である、という自己認識はこれらの国々の文化史、思想史を強く特徴づけている。様々な時代・テーマから、2つの国の歴史と文化を垣間見る。

読売新聞 2025/06/15

2025:4./ 284p
978-4-88116-125-8

¥3,740〔税込〕



空の時代の『中論』について

清水 高志 著

I A A B EDIT

初期仏教と大乘仏教を結ぶ最大のミッシング・リンク「中論」全27章の講義録。

「空」の概念を現代社会における技術革新や情報理論の視点から再度問い直す。質疑応答も収録する。

読売新聞 2025/06/15

2025:3./ 521p
978-4-911335-00-0

¥3,960〔税込〕



自分の感受性くらい(岩波現代文庫 文芸 368)

茨木 のり子 著

岩波書店

すがすがしく生きたいと思う心そのままを、確かな視線と優しい言葉でとらえた、あざやかな茨木のり子の詩の世界。1969年から1976年にかけての作品20篇を収めた詩集。伊藤比呂美による解説を加えて文庫化。

読売新聞 2025/06/22

2025:4./ 124p
978-4-00-602368-3

¥770〔税込〕



新参者(講談社文庫 ひ 17-30)

東野 圭吾 著

講談社

江戸の匂いも残る日本橋の一角で発見された、ひとり暮らしの40代女性の絞殺死体。彼女に何が起きていたのか。着任したばかりの刑事・加賀恭一郎は、謎を解き明かすため、未知の土地を歩き回る。

読売新聞 2025/06/22

2013:8./ 400p
978-4-06-277628-8

¥880〔税込〕



おいしいごはんが食べられますように(講談社文庫 た 143-1)

高瀬 隼子 著

講談社

皆が守りたくなるような存在で料理上手な芦川が苦手な押尾は、上手く立ち回れるタイプで食嫌いの二谷に、芦川へ「いじわる」しようと持ちかけるが…。職場の微妙な人間関係を、「食べること」を通してえぐり出す。

読売新聞 2025/06/22

2025:4./ 149p
978-4-06-539187-7

¥660〔税込〕





東京奇譚集(新潮文庫)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/06/22

2007:11./ 246p
978-4-10-100156-2
¥605〔税込〕



受け手のいない祈り

朝比奈 秋 著

新潮社

感染症の拡大で医療体制が逼迫し、青年医師・公河たちの病院が最後の望みになった。連続勤務で公河たちの身体と精神は限界に…。医師としての経験を元に過酷すぎる救命の現場を描く。『文学界』掲載を改稿。

読売新聞 2025/06/22

2025:3./ 233p
978-4-10-355732-6
¥2,090〔税込〕



墳墓記

高村 薫 著

新潮社

老いて死に瀕した一人の男が、長い長い仮死の夢を見る。そこに沸き立つのは高らかな万葉びとの声、源氏物語や伊勢物語の声、古今・新古今の歌の声。古代と現代文の自在な往還を試みた長編小説。『新潮』掲載に加筆・修正。

読売新聞 2025/06/22

2025:3./ 179p
978-4-10-378411-1
¥2,090〔税込〕



わたしがナチスに首をはねられるまで(CREST BOOKS)

ミリアム・ルロワ 著

新潮社

ナチスの将校を単身襲い、斬首され歴史から消されたロシア系移民のマリーナ。その生涯は、同じ女性として、男性中心の世間でさまざまな抑圧やハラスメントに苦しんできた著者の人生と重なり…。史実を踏み越える小説。

読売新聞 2025/06/22

2025:5./ 280p
978-4-10-590200-1
¥2,530〔税込〕



樋口一葉赤貧日記

伊藤氏貴 著

中央公論新社

貧乏なのに、紙幣の顔。生まれは裕福、晩年は借金三昧…。24歳で貧苦の内にこの世を去った樋口一葉は、いくら稼ぎ、いくら借り、何を買ひ、何を思ったのか？ 金銭事情を通して、その人物と作品とを繙く。

読売新聞 2025/06/22

2022:11./ 329p
978-4-12-005598-0
¥2,420〔税込〕





あなたを待ついつもの部屋

角田 光代 著

文藝春秋

窓から射しこむ朝の光、錆びた流し台にしたたる水滴の音。ホテルで眠る夜、どこかで出会った部屋たちの夢をみる…。表題作をはじめ、3つの帝国ホテルを舞台に織りなす、42編を収録。『IMPERIAL』連載を加筆修正。

読売新聞 2025/06/22

2024:7./ 222p
978-4-16-391874-7

¥1,705〔税込〕



ミナミの春

遠田 潤子 著

文藝春秋

売れない芸人を続ける娘、夫の隠し子疑惑が発覚した妻、父と血のつながらない高校生…。大阪・ミナミを舞台に、人の「あたたかさ」を照らす群像劇。『オール讀物』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

読売新聞 2025/06/22

2025:3./ 324p
978-4-16-391955-3

¥1,980〔税込〕



江藤淳と加藤典洋～戦後史を歩きなোস～

與那覇 潤 著

文藝春秋

戦後80年。再生する日本が「青春期」に悶えた記憶を老いたいま、どう受けとめるのか。文芸評論の巨人ふたりに倣いつつ、太宰治から村上龍、春樹まで、“魂”の遍歴をたどる。

読売新聞 2025/06/22

2025:5./ 317p
978-4-16-391982-9

¥2,090〔税込〕



まほろ駅前多田便利軒(文春文庫)

三浦 しをん 著

文芸春秋

ペットの世話・塾の送り迎え代行・納屋の整理・恋人のふりーそんな仕事のはずだった。元同級生の多田・行天がくりひろげる日常と冒

読売新聞 2025/06/22

2009:1./ 351p
978-4-16-776101-1

¥781〔税込〕



ママのささやきがきこえるよ～私と息子の音とことばの科学の旅～

リディア・デンワース／桑原桂 著

文芸社

サイエンスライターの著者が、三男の難聴発見をきっかけに、人工内耳というテーマを核にして、聾教育の歴史や聴力補助機器の研究開発、耳・脳の仕組み、言語発達の研究など、多岐にわたって掘り下げた記録。

読売新聞 2025/06/22

2025:5./ 505p
978-4-286-25387-9

¥2,090〔税込〕





あの人調べ方ときどき書棚探訪～クリエイター20人に聞く情報収集・活用術～

平山亜佐子 著

笠間書院

作家やライター、研究者、翻訳家、漫画家、編集者など各分野で活躍している総勢17組計19人プラス著者が、情報の収集方法や整理・活用のコツ、自慢の書棚と愛読書などを対談形式で紹介する。ライブ配信番組を元に書籍化。

読売新聞 2025/06/22

2025:6./ 359p
978-4-305-71042-0

¥2,530〔税込〕



成層圏の墓標

上田早夕里 著

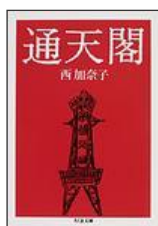
光文社

奇妙な異常気象が続く世界で、コンビニ夜勤の“私”は謎の存在「雨坊」と遭遇する。接触した途端、それは破裂し、“私”は不思議な青い風景を見るように…。「雨坊」の秘密へ迫る表題作など全10編を収録。

読売新聞 2025/06/22

2025:4./ 341p
978-4-334-10626-3

¥2,090〔税込〕



通天閣(ちくま文庫 に-9-1)

西 加奈子 著

筑摩書房

このしょもない世の中に、救いようのない人生に、ちょっぴり暖かい灯を点す驚きと感動の物語。織田作之助賞受賞作。

読売新聞 2025/06/22

2009:12./ 272p
978-4-480-42669-7

¥638〔税込〕



喋々囁々(ポプラ文庫 お5-2)

小川 糸 著

ポプラ社

「喋々囁々」＝男女が楽しげに小声で語り合うさま。東京・谷中の小さなアンティークきもの店を舞台にした大人の恋の物語。

読売新聞 2025/06/22

2011:4./ 429p
978-4-591-12419-2

¥858〔税込〕



ほたるいしマジカルランド(ポプラ文庫 て3-5)

寺地 はるな 著

ポプラ社

大阪の北部にある「ほたるいしマジカルランド」では、名物社長を筆頭にたくさんの人々が働いている。お客様に笑顔になってもらうため、日々奮闘する従業員。そんなある日、社長が入院したという知らせが入り…。お仕事小説。

読売新聞 2025/06/22

2023:8./ 296p
978-4-591-17868-3

¥792〔税込〕





生き物の死なせ方～共生・共存からはみ出した生物たちの社会学～

渡邊 悟史 著

ナカニシヤ出版

人は生き物をどのように死なせているのか？アカミミガメの駆除活動、プールで生きる交雑種オオサンショウウオ、昆虫採集…。共存・共生という枠組みの外にあるそれらの死を、どのようにデザインすべきかを考察する。

読売新聞 2025/06/22

2025:2./ 308p
978-4-7795-1856-0

¥2,970〔税込〕



たずねる～半田健人の歌謡曲対談集～

半田健人 著

本の雑誌社

昭和の暮らしの真ん中には歌謡曲があった。俳優であり歌謡曲研究家でもある著者が、高度成長期の日本を元気づけた昭和歌謡界の立役者らに、ニッチな質問を次々と投げかけ、貴重な証言をあつめた異色対談集。

読売新聞 2025/06/22

2025:5./ 275p
978-4-86011-603-3

¥2,200〔税込〕



共産主義車<ソ連編>(共産趣味インターナショナル VOL9)

松本京太郎 著

パブリプ

1930年代以降、ソ連は国内の自動車需要をほぼ全て自国で賄い、世界にも類を見ない「共産主義車」だけの特異な自動車文化を育んできた。ソ連の自動車に光を当て、開発の状況や各車の特性などをカラー写真と共に紹介する。

読売新聞 2025/06/22

2025:4./ 239p
978-4-908468-84-1

¥3,080〔税込〕



尼僧少尉カタリーナ・デ・エラウソ～時空を超える冒険者～

坂田 幸子 編

図書出版みぎわ

16世紀末のスペインで、良家の娘として生まれ、修道院で幼少期を過ごすも脱走。男性として新大陸に渡航し、商人・無頼漢・兵士として南米大陸各地を渡り歩いたカタリーナ・デ・エラウソの生涯を紹介する。

読売新聞 2025/06/22

2025:5./ 240p
978-4-911029-17-6

¥2,860〔税込〕



私の生い立ち(岩波文庫 緑 38-3)

与謝野 晶子 著

岩波書店

学校、家族、遊び友だち…。与謝野晶子が、堺ですごした幼少期の生活とその心情を素直に綴った表題作の自伝に、晶子が身近に接して記憶に鮮やかだった少女の姿を描いた「私の見た少女」を併収。竹久夢二による挿画も掲載する。

読売新聞 2025/06/29

2018:8./ 266p
978-4-00-310383-8

¥704〔税込〕





夜間飛行・人間の大地(岩波文庫 赤 N516-2)

サン＝テグジュペリ 著

岩波書店

夜空にひそむ美と脅威、人間の責務と幸福とのせめぎ合いを描く「夜間飛行」。長距離航路の開拓者たちの命がけの挑戦とその気高さを語る「人間の大地」。天空と地上での生の意味を問う飛行士=作家の代表作2作を収録。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 404p
978-4-00-375137-4

¥1,221〔税込〕



ペネロピアド～女たちのオデュッセイア～(角川文庫 ア 20-1)

マーガレット・アトウッド 著

KADOKAWA

ギリシア英雄譚「オデュッセイア」の男性的な叙事詩の中で、女たちの声は語られてこなかった。オデュッセウスの帰還を待つ妻ペネロペイアの内心は？12人の女中たちはなぜ殺された？巨匠の想像と語りの才を発揮した傑作。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 219p
978-4-04-116269-9

¥1,078〔税込〕



文学<2025>

日本文藝家協会 編

講談社

2024年刊行の文芸誌発表作品から精選した、「今」を代表する14人の作家が描いた珠玉の短篇。石田夏穂「ヘルスマニター」、川上未映子「わたしたちのドア」、角田光代「星ひとつ」などを収録。

読売新聞 2025/06/29

2025:6./ 352p
978-4-06-539711-4

¥4,400〔税込〕



荷風の昭和<前篇> 関東大震災から日米開戦まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。前篇は、関東大震災から日米開戦までを収録する。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 567p
978-4-10-603927-0

¥2,860〔税込〕



荷風の昭和<後篇> 偏奇館焼亡から最期の日まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。後篇は、偏奇館焼亡から最期の日までを収録する。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 590p
978-4-10-603928-7

¥2,860〔税込〕





ヨシモトオノ

吉本 ばなな 著

文藝春秋

天井の木目に小さな顔があった。何度見ても顔だった。知らないおじさんの顔…。日常の中でふと見える世界の裂け目。怖く、美しく、心の中に小さな不思議と希望の光を灯す怪談を集めた、吉本ばなな版遠野物語。全 13 編を収録。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 212p
978-4-16-391984-3

¥1,760〔税込〕



渦〜妹背山婦女庭訓魂結び〜(文春文庫 お 73-2)

大島 真寿美 著

文藝春秋

江戸時代の大坂・道頓堀。穂積成章は父から近松門左衛門の硯をもらい、浄瑠璃作者・近松半二として歩み出す。だが弟子には先を越され、人形遣いからは何度も書き直させられ、それでも書かずにはいられず…。

読売新聞 2025/06/29

2021:8./ 407p
978-4-16-791730-2

¥869〔税込〕



江戸・東京水道全史(筑摩選書 0302)

鈴木 浩三 著

筑摩書房

徳川家康の江戸入りから現代まで、最も基本的なインフラとして江戸・東京を支えてきた水道。江戸・東京の経営史を専門とし、東京都市水道局に長年勤務してきた著者が、水道の 435 年にわたる歴史をわかりやすくひもとく。

読売新聞 2025/06/29

2025:4./ 420p
978-4-480-01820-5

¥2,420〔税込〕



砕かれた四月(白水 U ブックス 海外小説永遠の本棚 261)

イスマイル・カダレ 著

白水社

20 世紀初頭のアルバニア。土地を支配する復讐の掟に従い、兄の血を奪い返した若い男ジョルグは死を待つ身だった。しかし、この土地を新婚旅行で訪れたディアナと視線を合わせたことで、ふたりはその運命を交錯させ…。

読売新聞 2025/06/29

2025:4./ 261p
978-4-560-07261-5

¥2,310〔税込〕



日本とロシア〜忘れられた交流史〜

シュラトフ ヤロスラブ 著

柏書房

日本とロシアはいかに出会い、交流してきたのか？ ヒト、モノ、情報の流れに着目し、色とりどりのエピソードで、日露関係の多面性を伝える。『ラジオまいにちロシア語』連載を大幅に加筆修正し、書下ろしを加える。

読売新聞 2025/06/29

2025:4./ 352p
978-4-7601-5603-0

¥2,420〔税込〕





行為する意識〜エナクティヴィズム入門〜

吉田 正俊、田口 茂 著

青土社

これまで展開されてきた科学的意識論の手法を紹介し、問題点を吟味した上で、「予測」という概念を「オートポイエーシス」「エナクティヴィズム」を参照しながら掘り下げる。意識を「行為」として捉え、多角的な視点で描く。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 368p
978-4-7917-7715-0

¥3,300〔税込〕



ザ・プレイ〜流れの彼方〜(現代美術スタディーズ)

橋本梓 著

水声社

発泡スチロールのイカダで川を下る<現代美術の流れ>、山で落雷を待ち続ける<雷>...。前衛美術を起点に文脈を越え、芸術表現に取り組む集団「ザ・プレイ」の全貌を描き出す。『国立国際美術館ニュース』連載をもとに書籍化。

読売新聞 2025/06/29

2025:3./ 197p
978-4-8010-0857-1

¥3,850〔税込〕



ガザ、戦下の人道医療援助

萩原 健 著

ホーム社

至近距離での空爆、戦車による砲撃、繰り返される退避要求...。国境なき医師団の緊急対応コーディネーターが、戦時下のガザで人道医療援助活動に携わった6週間の貴重な記録。

読売新聞 2025/06/29

2025:4./ 255p
978-4-8342-5399-3

¥2,200〔税込〕



断捨離血風録〜3年で蔵書2万5千冊を減らす方法〜

日下三蔵 著

本の雑誌社

魔窟王と呼ばれた書評家・日下三蔵が一念発起! 40年貯めに貯めた本を大放出する涙と笑いの蔵書処分ルポ。『本の雑誌』連載を書籍化。蔵書整理を手伝った小山力也による記録「古本屋ツアー・イン・日下三蔵邸」も同時刊行。

読売新聞 2025/06/29

2025:5./ 342p
978-4-86011-600-2

¥2,420〔税込〕



サイバー覇権戦争〜ソフトとハード、二つの戦線〜

ジェイコブ・ヘルバーク 著

作品社

新たな戦争=グレー戦争の主戦場であるサイバー空間での戦いを、ソフトウェアとハードウェアの二つの戦線に整理。テクノロジー権威主義国の攻撃の実態を明らかにし、民主主義国はいかに対処すべきかを示す。

読売新聞 2025/06/29

2025:3./ 427p
978-4-86793-062-5

¥3,740〔税込〕





コトラーの起業家的マーケティング～伝統的手法から脱して創造性とリーダーシップ重視型アプローチへ～

フィリップコトラー／ヘルマワン・カルタジャヤ／ホーイ・デン・ホアン／ジャッキー マセリー 著

朝日新聞出版

「人間中心とテクノロジーを融合させた次世代マーケティング」への道筋を提唱。組織が互いに繋がり合い、柔軟で、結果ドリブンになるための「起業家的アプローチ」を紹介する。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 326p
978-4-02-251986-3

¥2,970〔税込〕



王国への道～山田長政～(新潮文庫)

遠藤 周作 著

新潮社

日本経済新聞 2025/06/07

1984:3./ 357p
978-4-10-112319-6

¥737〔税込〕



集団はなぜ残酷にまた慈悲深くなるのか～理不尽な服従と自発的人助けの心理学～(中公新書 2851)

釘原 直樹 著

中央公論新社

個人ならしない悪事でも、なぜ集団になると簡単に同調・迎合し、服従してしまうのか。タイタニック号沈没事故、9・11 同時多発テロなどの事例研究や、同調・服従に関する実験を通して、集団の光と闇を解明する。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 288p
978-4-12-102851-8

¥1,166〔税込〕



これからの地球のつくり方～データで導く「7つの視点」～

ハナ・リッチー 著

早川書房

私たちは、人類の歴史の中で持続可能な世界を作る最初の世代になれる。新鋭のデータサイエンティストがファクトと数値を手に気候変動、食糧問題、生物多様性などの難題に切り込み、希望に満ちた未来を描き出す。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:3./ 444p
978-4-15-210415-1

¥2,970〔税込〕



坂の上の雲<1> 新装版(文春文庫)

司馬 遼太郎 著

文芸春秋

松山出身の歌人正岡子規と軍人の秋山好古・真之兄弟の三人を軸に、維新から日露戦争の勝利に至る明治日本を描く大河小説。

日本経済新聞 2025/06/07

1999:1./ 350p
978-4-16-710576-1

¥825〔税込〕





大地の子<1>(文春文庫)

山崎 豊子 著

文芸春秋

日本人戦争孤児で、中国人の教師に養育された陸一心。肉親の情と中国への思いの間で揺れる青年の苦難の旅路を、戦争や文化大革命などの歴史を背景に壮大に描く大河小説。

日本経済新聞 2025/06/07

1994:1./ 387p
978-4-16-755601-3

¥858〔税込〕



医師が本当に伝えたい 12歳までの育児の真実～親子の身体と心を守るエビデンス～

今西洋介 著

日経B P社

胎教は行うべき？ 母親の仕事が子どもに与える影響は？ 小児科医・新生児科医が、12歳までの子育ての悩みに答える確かな情報と、その背景にあるエビデンスをわかりやすく解説する。ニュースレターをもとに書籍化。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 270p
978-4-296-00243-6

¥1,980〔税込〕



最後の角川春樹 完全版(河出文庫 い50-1)

伊藤 彰彦 著

河出書房新社

本と映画と音楽の融合、父との闘争と和解、価値破壊と文化創造...破格の構想力によって、「出版」は「事件」となった。幾多の受難から立ち上がった角川春樹が、少年時代から現在までを語る。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:3./ 469p
978-4-309-42176-6

¥1,430〔税込〕



男性学入門～そもそも男って何だっけ?～(光文社新書 1359)

周司あきら 著

光文社

男性とは、男らしさとは何か？ 歴史的・文化的・社会的な規範に縛られた、つくられた存在としての男性の「当たり前」を疑う男性学。その解説を通して、多角的な視点から社会のあり方や課題を考える一冊。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:5./ 261p
978-4-334-10648-5

¥990〔税込〕



蜜蜂と遠雷<上>(幻冬舎文庫 お-7-14)

恩田 陸 著

幻冬舎

芳ヶ江国際ピアノコンクール。自宅に楽器を持たない少年・風間塵、かつての天才少女・栄伝亜夜、サラリーマン・高島明石、優勝候補・マサル。天才たちによる、競争という名の自らの闘い。その火蓋が切られた。

日本経済新聞 2025/06/07

2019:4./ 454p
978-4-344-42852-2

¥869〔税込〕





蜜蜂と遠雷<下>(幻冬舎文庫 お-7-15)

恩田 陸 著

幻冬舎

2次予選での課題曲「春と修羅」。マサルの演奏は素晴らしかった。が、明石は自分の「春と修羅」に自信を持ち、勝算を感じていた。3次、本選に勝ち進むのは誰か。そして優勝を手にするのは....

日本経済新聞 2025/06/07

2019:4./ 508p
978-4-344-42853-9

¥869〔税込〕



医師が教える子どもの食事 50の基本～脳と体に「最高の食べ方」「最悪の食べ方」～

伊藤明子 著

ダイヤモンド社

子どものカラダ・心・脳・性格は、食べたもので決まる。小児科医が医学的な根拠情報をもとに、子どもの食に関する大事なことを解説。悩み別の処方せん、悩みに効くかんたんレシピ&ちょい足しアイデアも紹介する。

日本経済新聞 2025/06/07

2023:1./ 207p
978-4-478-11509-1

¥1,650〔税込〕



科学的根拠で子育て～教育経済学の最前線～

中室牧子 著

ダイヤモンド社

将来の収入を上げる教育とは？「第1志望校の最下位」と「第2志望校の1位」ではどちらが有利？さまざまなデータを駆使して得られた科学的根拠に基づいて、教育や子育てに有益な提案をする。

日本経済新聞 2025/06/07

2024:12./ 311p
978-4-478-12109-2

¥1,980〔税込〕



内調～内閣情報機構に見る日本型インテリジェンス～(ちくま新書 1854)

岸 俊光 著

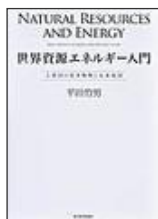
筑摩書房

1936年に情報委員会が設置される前夜から、動揺する国際秩序への対応を迫られた1972年頃までの日本の内閣情報機構の実態を、3人のキーパーソン、横溝光暉、吉原公一郎、志垣民郎の残した資料と証言をもとに描く。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 510p
978-4-480-07682-3

¥1,540〔税込〕



世界資源エネルギー入門～主要国の基本戦略と未来地図～

平田 竹男 著

東洋経済新報社

世界の資源エネルギー戦略の全体像を俯瞰する入門書。エネルギー戦略の基本的視座を説明し、脱ロシアに急ぐ欧州、シェール革命、中国のエネルギー戦略、再エネ対応など、各国の状況を解説する。早稲田大学の講義を基に書籍化。

日本経済新聞 2025/06/07

2023:5./ 395p
978-4-492-44472-6

¥3,740〔税込〕





秩序崩壊～21 世紀という困難な時代～

ヘレン・トンプソン 著

東洋経済新報社

欧州諸国の混乱の起源は「1956 年のスエズ危機」、グリーンエネルギー重視が招く「中国依存、雇用喪失、貧困と分断」…。エネルギー・グローバル金融・民主主義の 3 つの歴史を軸に、長期的な地政学的物語でその行方を描く。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 560p
978-4-492-44486-3

¥3,960〔税込〕



島のエアライン<上>

黒木 亮 著

毎日新聞出版

人口 15 万人の島の自治体が、総額 85 億円の空港建設に乗り出した。地方のハコもの事業に対する批判の中、悲願は実現するのか!? 独力で飛行機を飛ばす島の夢と苦闘を描いた実話物語。『サンデー毎日』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/06/07

2018:6./ 336p
978-4-620-10835-3

¥1,650〔税込〕



島のエアライン<下>

黒木 亮 著

毎日新聞出版

地方自治体が経営する日本初の定期航空会社は、業績が急降下。地域の医療も支える「島のエアライン」を、関係者たちはどう救うのか!? 独力で飛行機を飛ばす島の夢と苦闘を描いた実話物語。『サンデー毎日』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/06/07

2018:6./ 334p
978-4-620-10836-0

¥1,650〔税込〕



政治の米・経済の米・文化の米～稲と米で読む日本史～

新谷 尚紀 著

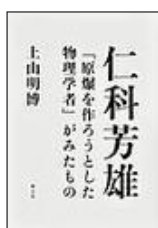
山川出版社

重要な食糧としての米、貨幣としての米、伝統文化の表象としての米…。日本人とつながりの深い<稲と米>に着目。考古学・農学・歴史学など学際的な観点で古代から現代までの歴史を辿り、日本という国と人間の成り立ちに迫る。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:3./ 487p
978-4-634-59147-9

¥3,300〔税込〕



仁科芳雄～「原爆を作ろうとした物理学者」がみたもの～

上山明博 著

青土社

戦中、原爆開発を秘密裏に進めていた「日本の現代物理学の父」、仁科芳雄。その生涯を追い、ほとんど語られることのない日本の原子爆弾の開発をめぐる物語の端緒と全容をたどり、科学と平和を考える評伝ノンフィクション。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 262p
978-4-7917-7711-2

¥2,860〔税込〕





外交官の耳、作曲家の眼

戸田 邦雄 著

アルテスパブリッシング

作曲を志しながら外務省に入り、外交官として活躍した戸田邦雄。戦後、創作活動や大学での後進の育成のかたわら、音楽を超えた広い視野から発表し続けた、豊潤な知性に溢れる音楽論を収録。生い立ちを語った遺稿も掲載する。

日本経済新聞 2025/06/07

2009:6./ 269p
978-4-903951-18-8

¥3,080〔税込〕



手仕事というもくろみ〜暮らしを編み直す〜

吉田 慎司 著

ブルーブラックカンパニー

伝統的な箒づくりを通じて世界との多様な接点を見だし、生きることの手ざわりを現代社会に回復しようと試みる著者が、自身の手仕事や小樽での暮らしなどを綴る。『ブルーブラックマガジン』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2025/06/07

2025:4./ 255p
978-4-911499-00-9

¥2,200〔税込〕



移動と階級(講談社現代新書 2774)

伊藤 将人 著

講談社

移動とは何か? なぜ、どんなふうに移動は不平等なのか? 「移動格差」という言葉をキーワードに移動を問い直して、現代の移動の実態と、移動がつくる社会の姿を明らかにし、格差解消に向けた5つの観点と方策を示す。

日本経済新聞 2025/06/07、産経新聞 2025/06/15

2025:5./ 261p
978-4-06-539734-3

¥1,100〔税込〕



スロー・ルッキング〜よく見るためのレッスン〜

シャリー・ティシュマン 著

東京大学出版会

ゆっくり見れば世界が変わる。ハーバード大学プロジェクト・ゼロ主任研究員の著者が、ゆっくり見ることの効用を様々な角度から論じ、少しの工夫で誰でもできる実践的な提案を行う。

日本経済新聞 2025/06/07、読売新聞 2025/06/22、朝日新聞 2025/06/28

2025:4./ 236p
978-4-13-051367-8

¥4,620〔税込〕



心臓とこころ〜文化と科学が明かす「ハート」の歴史〜

ヴィンセント・M・フィグレド 著

化学同人

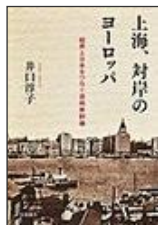
心臓はただのポンプなのか? 心臓専門医が古代の神秘から現代の医学までの心臓に対する人類の認識の役割を解き明かす。さらに、最新の科学が明かす心臓と脳の関係や、心臓医療の進歩についても詳しく解説する。

日本経済新聞 2025/06/07、毎日新聞 2025/06/14

2025:4./ 350p
978-4-7598-2404-9

¥2,970〔税込〕





上海、対岸のヨーロッパ～租界と日本をつなぐ芸術家群像～

井口 淳子 著

岩波書店

戦時期も日本からすぐに行けた上海。戦後日本の文芸復興につながる上海租界の芸術活動を、コンサート批評を書き続けたグロボワと、多くのアーティストのアジアツアーを実現したストロークを中心に、生き生きと描き出す。

日本経済新聞 2025/06/07、毎日新聞 2025/06/21

2025:3./ 238p
978-4-00-061687-4

¥2,970〔税込〕



コーポレートガバナンス入門(岩波新書 新赤版 2065)

太田 洋 著

岩波書店

「良い」コーポレートガバナンスとは何か。実現するために何が必要か。各国でどのような規律が行われているのか。コーポレートガバナンスの本質を明確にし、実務に必須の知識を提供する。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 284p
978-4-00-432065-4

¥1,166〔税込〕



ロシア政治～プーチン権威主義体制の抑圧と懐柔～(中公新書 2854)

鳥飼 将雅 著

中央公論新社

プーチンはどのようにして絶大な権力を手に入れたのか？ 権力維持のために制度をどのように発展させてきたのか？ ソ連崩壊からの歴史を繙き、統治機構、市民社会など6つの観点から権威主義体制の内幕に迫る。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 336p
978-4-12-102854-9

¥1,375〔税込〕



アウシュヴィッツ脱出～命を賭けて世界に真実を伝えた男～

ジョナサン・フリードランド 著

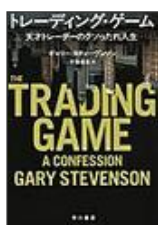
NHK出版

19歳の少年は危険を冒して強制収容所から脱出し「死の工場」の実態を暴いた。それは世界中に配信されてユダヤ人解放へとつながり、多くの命を救い…。歴史を動かし、自身も歴史に翻弄された男の功績と生涯を明らかにする。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:4./ 429p
978-4-14-081988-3

¥2,970〔税込〕



トレーディング・ゲーム～天才トレーダーのクソったれ人生～

ギャリー・スティーンソン 著

早川書房

東ロンドンの貧しい労働者階級に生まれたギャリーには、並外れた数学の才能があった。シティバンクに就職しFXトレーダーとなったギャリーを待っていたのは、業界の狂気的な日常、そして資本主義の虚無だった…。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 486p
978-4-15-210427-4

¥2,860〔税込〕





やなせたかしの素顔～のぶと歩んだ生涯～(潮文庫 い-15)

伊多波 碧 著

潮出版社

高知県で生まれた柳瀬崇は、徴兵を終え中国から帰国すると高知新聞社に入社し、小松暢と出会う。上京した暢に引き寄せられるように東京に出た崇は、紆余曲折を経て漫画家として独立するが、不毛な時代が続く…。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:3./ 259p
978-4-267-02454-2

¥990〔税込〕



ビジネスと地政学・経済安全保障～「教養」から実践で使える「戦略思考」へ～

羽生田慶介 著

日経 B P 社

地政学・経済安全保障リスクは、すべての企業にとって無視できない最重要の経営テーマであり、実務に直結する課題である。ビジネスパーソンに向けて、地政学リスクや経済安全保障リスクにどのように対応すべきかを解説する。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:3./ 319p
978-4-296-00217-7

¥2,750〔税込〕



唯識～心の探求 12 話～

多川俊映 著

笠間書院

複雑で難しい唯識哲学を、諸仏典や俳句・和歌・小説といった諸文芸、チャートやイラストを用いて、わかりやすく解説する。NHK ラジオ「宗教の時間」のガイドブックを書籍化。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 301p
978-4-305-71040-6

¥3,080〔税込〕



未来

ナオミ・オルダーマン 著

河出書房新社

巨大テクノロジー企業の覇者が世界の情報を支配する近未来。“世界の終末”に備えて開発された予知装置 AUGR は、ついにその日が来たことを告げた。極限の格差社会で、生存戦略者たちの陰謀劇が動き出し…。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:4./ 556p
978-4-334-20922-7

¥3,256〔税込〕



「稼ぐ小国」の戦略～世界で沈む日本が成功した 6 つの国に学べること～ (光文社新書 1361)

関山健 著

光文社

高い「一人あたり GDP」を実現している小国には、そのガバナンス、政策方針、教育や人材育成、ビジネス環境などに共通した特徴が見られる。世界トップの生産性と競争力を築いた 6 つの小国が成功した理由を解き明かす。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 302p
978-4-334-10650-8

¥1,100〔税込〕





明日の君は、どこにいる?〜ヘーゲル先生の自己啓発の教室〜

今野雅方／行方順之介 著
青春出版社

再会した旧友との会話から、ふと心にわきあがる人生への疑問。あたりまえの毎日と背中合わせにあるのは、大きなチャンスか、それとも危機か。人生の岐路で、自分に向き合い、自分で決断するための思考の原理を解き明かす。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:4./ 382p
978-4-413-23400-9

¥2,420〔税込〕



ユーミンと「14番目の月」〜荒井由実と女性シンガー・ソングライターの時代〜

ラッセ・レヘトネン 著
平凡社

女性シンガー・ソングライターのパイオニア、荒井由実。フィンランドの気鋭の日本音楽研究者が、1976年リリースのユーミン4枚目のアルバム「14番目の月」と、音楽と社会が大きく変化した時代を読み解く。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:3./ 246p
978-4-582-83954-8

¥2,420〔税込〕



課税と脱税の経済史〜古今の(悪)知恵で学ぶ租税理論〜

マイケル・キーン、ジョエル・スレムロッド 著
みすず書房

税制のよしあしを定める原則は、どの時代にもある。シュメールの粘土板、カリグラ帝の奇抜な税制から、パナマ文書で暴露された狡猾な租税回避、ブロックチェーン技術で可能になる税務まで、税金にまつわるエピソードを紹介。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:1./ 640p
978-4-622-09755-6

¥4,950〔税込〕



なぜ自由貿易は支持されるのか〜貿易政治の国際比較〜

久米 郁男 編
有斐閣

国際社会における退潮が論じられる一方、TPPなど新たな広がりもみられる自由貿易。その背景にある自由貿易支持の底堅さの理由を、消費者の利益、安全保障上の利益に焦点を当て、実証的に明らかにする。

日本経済新聞 2025/06/14

2023:8./ 200p
978-4-641-14946-5

¥3,850〔税込〕



ごみと暮らしの社会学〜モノとごみの境界を歩く〜

梅川 由紀 著
青弓社

人々の日常生活に密接した「生活文化としてのごみ」に着目。ごみとモノの境界がどこにあるのか、時代によってその境界がどう揺れ動いてきたのか等を、多くの雑誌や資料の分析、ごみ屋敷でのフィールドワークから明らかにする。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 322p
978-4-7872-3556-5

¥3,080〔税込〕





嘘発見器の発明者たち～真実に取り憑かれた人々の物語～

アミット・カトワラ 著

青土社

1920年代に発明された嘘発見器。嘘発見器の開発秘話を紹介するとともに、2つの殺人事件を取り上げ、嘘と真実のあいだで揺れ動く人々を活写する。人間の本質を照らし出すノンフィクション。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:4./ 432p
978-4-7917-7705-1

¥4,180〔税込〕



米国通商政策史

ダグラス・A・アーウィン 著

文真堂

世界初の民主主義国家の政策策定プロセスと制度はどのように構築されたのか。米国の通商政策の特徴を3つの時代に大別し、各時代を象徴する税収、輸入規制、そして互惠主義を優先する時代へと重心が移ってきた歴史を繙く。

日本経済新聞 2025/06/14

2022:2./ 928p
978-4-8309-5113-8

¥11,000〔税込〕



人間関係の悩みがなくなるカントのヒント(ワニブックス|PLUS|新書 386)

秋元 康隆 著

ワニブックス

自分の子供は自分の所有物ではない、則を超えた利己性は自分自身を蝕む…。友人関係から親子関係、仕事の人間関係、SNSの絡んだ人間関係まで、他者との関係の築き方についてのカントの言説を追う。

日本経済新聞 2025/06/14

2023:6./ 188p
978-4-8470-6695-5

¥990〔税込〕



カタツムリの世界の描き方

野島智司 著

三オブックス

大きく重たい殻を背負い、常にゆっくりと動き、なにか嫌なことがあれば一瞬で引きこもるカタツムリ。その非効率な生き方の魅力を詳しく解説し、さまざまな生きづらさや問題を抱える現代人のこれからの生き方のヒントを探る。

日本経済新聞 2025/06/14

2025:5./ 223p
978-4-86673-452-1

¥1,980〔税込〕



国際経済学入門(経済学叢書 Introductory)

古沢 泰治 著

新世社

望ましい国際貿易とはどのようなものか。伝統的な国際貿易理論から、国際金融まで、国際経済学においてこれまで積み上げられてきた知見を紹介する。理論的裏付けを持ち、多面的視野から問題について判断する力を培う入門書。

日本経済新聞 2025/06/14

2022:5./ 304p
978-4-88384-348-0

¥2,805〔税込〕





薬物戦争の終焉～自律した大人のための薬物論～

カール・L・ハート 著

みすず書房

依存症を中心とした神経科学の研究に従事する現役のヘロインユーザーが、違法薬物をめぐる神話を解体。薬物の本当の効果、健康被害を防ぐ安全な使用法などを説き、人種差別や制度的暴力といった悲劇の歴史も明かす。

日本経済新聞 2025/06/14、毎日新聞 2025/06/28

2025:5./ 352p
978-4-622-09774-7
¥3,960〔税込〕



アメリカ合衆国史<3> 20世紀アメリカの夢(岩波新書 新赤版 1772)

中野 耕太郎 著

岩波書店

工業化と大衆社会化を迎えるなかで格差や貧困といった新しい問題に直面し、社会的な福祉国家=帝国と化した20世紀のアメリカ。ベトナム戦争とニクソン・ショックにより冷戦が変化する1970年代までを描く。

日本経済新聞 2025/06/21

2019:10./ 282p
978-4-00-431772-2
¥946〔税込〕



わかりあえないイギリス～反エリートの現代政治～(岩波新書 新赤版 2067)

若松 邦弘 著

岩波書店

緊縮財政や都市と地方の格差といった対立構図はどこからきたのか。民主主義のモデルであったはずのイギリス政治において表面化しつつある新たな対立図式に注目し、その表出にいたる2010年代末までの20年弱の過程を描く。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:5./ 206p
978-4-00-432067-8
¥1,012〔税込〕



内務省～近代日本に君臨した巨大官庁～(講談社現代新書 2772)

内務省研究会 編

講談社

人々の生活全般を所管し、他の省庁を圧倒した「省庁の中の省庁」は、いかに生まれ、いかに衰退していったのか。近代日本の政治と行政のあゆみを辿りながら、巨大すぎる官庁「内務省」の実像を描く。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:4./ 552p
978-4-06-539430-4
¥1,650〔税込〕



贖罪(新潮文庫 マ-28-5)

イアン・マキューアン 著

新潮社

まだ戦争が始まる前、地方の旧家で暮らしていた私にとって、世界は無限に開けていた。あの暑い夏の日が来るまでは。いくつかの誤解、取り返しのかかぬ事件、戦争と欺瞞。無垢な少女が狂わせてしまった生を描く大河小説。

日本経済新聞 2025/06/21

2019:1./ 637p
978-4-10-215725-1
¥990〔税込〕





雨天炎天

村上 春樹、松村 映三 著

新潮社

1988 年、カピタパンを噛みしめながら聖地の山道を歩いたギリシャ。そして、謎の「泳ぐ猫」を求めて廻った、兵士と羊の国・トルコ。多数の未発表写真での過酷な旅の全行程を再編集したロード・エッセイ。

日本経済新聞 2025/06/21

2008:2./ 280p
978-4-10-353419-8

¥1,760〔税込〕



アメリカン・ロイヤーの誕生～ジョージタウン・ロー・スクール留学記～ (中公新書)

阿川 尚之 著

中央公論新社

日本経済新聞 2025/06/21

1999:2./ 223p
978-4-12-100819-0

¥858〔税込〕



わたしを離さないで(ハヤカワ epi 文庫)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

優秀な介護人キャシー・H は「提供者」と呼ばれる人々の世話をしている。生まれ育った施設ヘルシヤムの親友トミーやルースも「提供者」だった。キャシーは施設での奇妙な日々を思いをめぐらす。

日本経済新聞 2025/06/21

2008:8./ 450p
978-4-15-120051-9

¥1,540〔税込〕



行動経済学の死～再現性危機と経済学のゆくえ～(ハヤカワ新書 042)

川越 敏司 著

早川書房

経済学に心理学の知見を取り入れ、新たな地平を切り拓いた行動経済学。だが、その成果に疑惑の目が向けられている。理論に根拠なし？ ナッジに効果なし？ データに捏造あり？ 行動経済学会会長が渦巻く疑惑の真相に迫る。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:4./ 206p
978-4-15-340042-9

¥1,540〔税込〕



日本株式会社の顧問弁護士～村瀬二郎の「二つの祖国」～(文春新書 1131)

児玉 博 著

文藝春秋

戦争前夜と言われた日米通商摩擦で、日本を救ってくれたのは、日系二世の米国人弁護士だった。大和魂とアメリカン・スピリッツの両方を体現した日系人弁護士の生涯を綴る。

日本経済新聞 2025/06/21

2017:8./ 198p
978-4-16-661131-7

¥946〔税込〕





海底の覇権争奪～知られざる海底ケーブルの地政学～

土屋 大洋 著

日経ＢＰ社

電信と大英帝国、インターネットと米国…。国際政治の覇権国は、電気通信ネットワークの発達に深く関与してきた。その最重要インフラである海底ケーブルの軌跡と役割を、地政学の観点から解明する。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:4./ 282p
978-4-296-12415-2

¥2,860〔税込〕



割れたグラス(アフリカ文学の愉楽)

アラン・マバンク 著

国書刊行会

中部アフリカ、コンゴ共和国の下町にあるバーの主人からの依頼で、「割れたグラス」はバーとその常連客たちとの日々を1冊のノートに書き留めていく。いずれ劣らぬ酔客たちの奇怪な逸話が次々とノートに綴られていき…。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:4./ 283p
978-4-336-07694-6

¥2,860〔税込〕



プレミアムカラー国語便覧 改訂版

数研出版

言語文化の奥深さを実感できる国語に関するあらゆる資料を掲載した資料集。敬語の使い方など今さら人に聞けない国語常識をわかりやすく解説。今と昔の旅の違いなど、あらゆるものを比べることで言語文化のあらたな一面を学ぶことができる。

日本経済新聞 2025/06/21

2024:2./ 520p
978-4-410-33913-4

¥990〔税込〕



死を笑う～落語ととむらい～

高橋 繁行 著

創元社

死やとむらいにかかわる落語を取り上げ、江戸落語と上方落語を対比しながら、その背景にある江戸から昭和初期の葬送の習俗や文化、精神性を解き明かす。実際にあった珍葬式、歌舞伎狂言の怪談話などを紹介するコラムも収録。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:5./ 235p
978-4-422-23046-7

¥2,420〔税込〕



供述によるとペレイラは……(白水Uブックス)

アントニオ・タブッキ 著

白水社

ファシズムの影が忍びよるポルトガル。リスボンの小新聞社の中年文芸主任が、ひと組みの若い男女との出会いによって思いもかけぬ運命の変転に見舞われる。1996年の再刊。

日本経済新聞 2025/06/21

2000:8./ 193p
978-4-560-07134-2

¥1,100〔税込〕





ヴェネツィアの宿～須賀敦子コレクション～(白水Uブックス)

須賀 敦子 著

白水社

旅人の心をなごますヴェネツィアの宿で思いめぐらすはるかな記憶。少女時代、孤独な留学時代、父の死...親族をめぐる葛藤と自身の心の軌跡を描いた自伝的エッセイ。
1993年文芸春秋刊の再刊。

日本経済新聞 2025/06/21

2001:10./ 266p
978-4-560-07354-4

¥1,210〔税込〕



知恵の七柱<1>(東洋文庫)

T・E・ロレンス 著

平凡社

日本経済新聞 2025/06/21

1979:1./ 364p



黒猫のいる回想図書館(ハーパーBOOKS+ ひ 1-1)

柊 サナカ 著

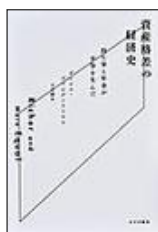
ハーパーコリンズ・ジャパン

恋人も仕事も住む場所もなくし、不幸のどん底にいた千紗に、路地裏の黒猫が「人生最悪の日か」と声をかけてきた。「そうだ」と答えた千紗は、気づくと不思議な図書館に。自分の人生を本に書きあげるまで出られないと言われ...

日本経済新聞 2025/06/21

2025:5./ 254p
978-4-596-96273-7

¥819〔税込〕



資産格差の経済史～持ち家と年金が平等を生んだ～

ダニエル・ヴァルデンストロム 著

みすず書房

格差は、自然の法則でも経済の法則でもない。西欧経済での資本の役割に新たな見方を提供し、時間とともにどのようにして富が生まれて分配されるのかについて、また、それを形成するさまざまな力について詳述する。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:5./ 280p
978-4-622-09781-5

¥3,960〔税込〕



山川詳説日本史図録 第10版

詳説日本史図録編集委員会 編

山川出版社

『詳説日本史』(日探 705)に完全準拠した総合図録。豊富な写真、図版・資料と詳しい解説。より見やすいレイアウトにリニューアル。

日本経済新聞 2025/06/21

2023:3./ 376p
978-4-634-02531-8

¥990〔税込〕



山川詳説世界史図録 第5版

山川出版社

『詳説世界史』(世探 704)に準拠した図録。豊富な写真、図版・資料と詳しい解説。紙面デザインを一新し、より見やすくなった。

日本経済新聞 2025/06/21

2023:3./ 374p
978-4-634-04515-6

¥990〔税込〕





日本の経済投票～なぜ日本で政権交代が起こらないのか?～

大村 華子 著

有斐閣

人びとは選挙の際に経済状況をどの程度評価して投票しているのか。実際に経済投票が日本で行われてきたのかを世論調査・実験データを用いて明らかにする。また政権交代が起こりにくい現状に経済投票の観点からアプローチする。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:3./ 250p
978-4-641-14956-4

¥4,400〔税込〕



中華人民共和国における腐敗と反腐敗～改革開放前後での連続と変容～

馬 嘉嘉 著

明石書店

中華人民共和国の成立から現在に至るまで、重大な政治問題である腐敗現象と、腐敗撲滅のための政府の反腐敗の政策について、改革開放前とその後における事例の研究を通じ、その特徴を明らかにする。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:3./ 249p
978-4-7503-5925-0

¥4,950〔税込〕



オッペンハイマーの遺産～湯川中間子・原爆・ブラックホール～

佐藤文隆 著

青土社

ナチスドイツでの原子核分裂の発見を受けて始まった「核」の時代。苦悩と葛藤とともに生きた天才たちの生涯を追いながら、科学とわたしたち、科学と社会の関係を再び問い直す。『現代思想』連載を加筆し単行本化。

日本経済新聞 2025/06/21

2025:4./ 223p
978-4-7917-7710-5

¥2,640〔税込〕



なぜハーバードは虎屋に学ぶのか～ハーバード白熱教室の中の日本～(中公新書ラクレ 842)

佐藤智恵 著

中央公論新社

虎屋、ドン・キホーテ、無印良品…。ハーバード MBA 教室では、なぜ日本企業の今を学ぶのか。教員・学生の日本研修からわかる日本の魅力を伝える。『ダイヤモンド・オンライン』『日刊工業新聞』掲載記事を加筆、再構成。

日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 270p
978-4-12-150842-3

¥1,100〔税込〕



ライフシフトの未来戦略～幸福な 100 年人生の作り方～

アンドリュー・スコット 著

東洋経済新報社

長寿化社会で個人や社会はどのように変わるべきか? よりよい老い方、健康と寿命の価値、老化科学の新薬開発、高齢者にやさしい仕事、個人の資金管理、世代に関する課題などを論じる。

日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 500p
978-4-492-31563-7

¥3,080〔税込〕





最後はなぜかうまくいくイタリア人(日経ビジネス人文庫 み 3-1)

宮嶋 勲 著

日本経済新聞出版社

アポの時間は努力目標。嫌なことは後回しでよい。一度にふたつのことはしない。商談より食事が大切。それでも、結果が出るのはなぜ? 私たち日本人とは対極のイタリア人の国民性を、著者が体験したエピソードとともに紹介。

日本経済新聞 2025/06/28

2018:1./ 238p
978-4-532-19848-0

¥825〔税込〕



「科学知」と「人間知」を結びつけるために〜わたしの最終講義〜

池内了 著

青土社

世界の見方を広げるための9つの科学講義。「科学的」とはどういうことか」という問いかけから、松尾芭蕉が天の河の美しさを詠んだ俳句の考察まで、大小さまざまな事柄を科学の視点から捉え直す。

日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 269p
978-4-7917-7714-3

¥2,640〔税込〕



森を焼く人〜自然と人間をつなぎ直す「再生の火」を探して〜

M・R・オコナー 著

英治出版

なぜ山火事は巨大化したのか。その原因は、気候変動だけではなかった-。気鋭のジャーナリストが、破滅的災害の最前線に自ら飛び込み、先住民や森林火災消防士、研究者らとともに忘れられた「森と火と人」の関係を解き明かす。

日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 477p
978-4-86276-357-0

¥2,970〔税込〕



水脈を聴く男

ザフラーン・アルカースィミー 著

書肆侃侃房

井戸で発見された溺死体のお腹から取り出された胎児。胎児には大地の「水脈を聴く」能力が宿っていた。やがて水源を探し当てる「水追い師」として各地で引く手あまたになるが…。水をめぐる傑作長編。

日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 213p
978-4-86385-674-5

¥2,200〔税込〕



絵本とは何か〜起源から表現の可能性まで〜

松本 猛 著

岩波書店

絵本は、絵とテキストの融合によって生みだされる総合芸術の一ジャンル。数多くの作品を取り上げながら絵本の歴史をたどり、多様な表現の技法やスタイル、テーマを解説し、その魅力と可能性について縦横無尽に語る。

毎日新聞 2025/06/07

2025:2./ 238p
978-4-00-022319-5

¥2,750〔税込〕





このとき、夜のはずれで、サイレンが鳴った

原 広司、吉見 俊哉 著

岩波書店

稀有な建築家は作品、実践、人生を通じ、いかなる時間、空間と対話してきたのか？
建築家・原広司が、かつて自身の研究室に在籍した社会学者・吉見俊哉を聞き役に、
全力で取り組み、遺したオーラルヒストリー。

毎日新聞 2025/06/07

2025:3./ 246p
978-4-00-022984-5

¥3,630〔税込〕



長くつ下のピッピ 新版(岩波少年文庫 14)

リンドグレン, A. (アストリッド) 著

岩波書店

世界一強い女の子ピッピのとびきりゆかいな物語。となりの家に住むトミーとアンニ
カは、ごたごた荘でサルと一緒に自由気ままに暮らしているピッピがうらやましくて
なりません。90年刊の新版。

毎日新聞 2025/06/07

2000:6./ 239p
978-4-00-114014-9

¥748〔税込〕



マイナス×マイナスはなぜプラスになるのか(朝日新書 1001)

鈴木貫太郎 著

朝日新聞出版

学校で教わった最大の謎。「 $(-1) \times (-1) = 1$ 」という不可思議な数式-。丸暗記した定理や
公式は、結局なんだったの？ 球の体積で $4/3$ をかける意味、二進数が合理的な理由な
ど、数式の謎を解き明かす。

毎日新聞 2025/06/07

2025:4./ 234p
978-4-02-295309-4

¥1,155〔税込〕



自由<上>

アンゲラ・メルケル 著

KADOKAWA

16年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨ
ーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一さ
れたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

毎日新聞 2025/06/07

2025:5./ 416p
978-4-04-113632-4

¥2,750〔税込〕



自由<下>

アンゲラ・メルケル 著

KADOKAWA

16年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨ
ーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一さ
れたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

毎日新聞 2025/06/07

2025:5./ 408p
978-4-04-113633-1

¥2,750〔税込〕





古代マケドニア全史～フィリッポスとアレクサンドロスの王国～(講談社選書メチエ 822)

澤田 典子 著

講談社

世界史に比類なき足跡を残した英雄たちの王国、マケドニア。紀元前7世紀半ばの建国から、フィリッポスによるギリシア制覇、東方遠征、後継者戦争の果てに滅亡に至るまでの全軌跡を、最新の研究成果を踏まえ解説する。

毎日新聞 2025/06/07

2025:3./ 482p
978-4-06-539138-9

¥2,970〔税込〕



幕末維新史への招待<国際関係編>

町田 明広 編

山川出版社

そのとき欧米列強、東アジア諸国ではなにが起きていたのか？世界の近代化は幕末の日本に何をもたらしたのか？日本史と世界史を融合した最新研究で、幕末維新期の全体像をとらえ直す。

毎日新聞 2025/06/07

2025:5./ 246p
978-4-634-15252-6

¥1,980〔税込〕



ドロシーマンション

カヒジ 著

303 BOOKS

灰色の町を出て、「住みたいと思う町」を探しに出かけたタータン。毛がふさふさのヘリ、物知りのクレバー、らくがき好きのビビなど、個性的な人々が住むマンションにたどりつき…。韓国発、多様性をテーマにした大人向け絵本。

毎日新聞 2025/06/07

2025:5./ 80p
978-4-909926-44-9

¥1,980〔税込〕



その悩み、カントだったら、こう言うね。

秋元康隆 著

晶文社

「結果がすべて」は本当か？正直者はバカを見る？すべての行為は道徳的善か悪のどちらかなのか？悪への自由とは？日常の悩みから学問上の疑問まで、Q&A形式でカント倫理学を解説する。

毎日新聞 2025/06/07、読売新聞 2025/06/08、日本経済新聞 2025/06/14

2025:4./ 221p
978-4-7949-7465-5

¥1,980〔税込〕



王者の挑戦～「少年ジャンプ+」の10年戦記～

戸部田 誠 著

集英社

多くの読者を獲得し、人気マンガ誌アプリとなった「少年ジャンプ+」。どのようにして生まれ、どのようにして進化し、今後どこを目指していくのか？マンガ誌アプリ「少年ジャンプ+」の秘密に迫るノンフィクション。

毎日新聞 2025/06/07、読売新聞 2025/06/15

2025:5./ 251p
978-4-08-788108-0

¥1,980〔税込〕





田んぼのまん中のポツンと神社

えぬびい 著

飛鳥新社

田んぼのまん中にポツンと佇む「ポツ神」だけを四季別にまとめた写真集。神社の歴史や伝承、地域の特色や作物、農作業など、「ポツ神」を取り巻く様々な要素も紹介する。ポツンと神社の神様・神使図鑑も収録。

毎日新聞 2025/06/07、読売新聞 2025/06/29

2025:3./ 143p
978-4-86801-067-8

¥2,420〔税込〕



ウクライナ戦争と外交～外交官が見た軍事大国の侵略と小国の戦略～

松田邦紀 著

時事通信出版局

2022年2月から始まった、ロシアによるウクライナへの全面的侵襲。抵抗を続けるウクライナは、この厳しく苦しい状況をどう切り抜けてきたか。戦時下のウクライナに駐在した全権大使が、戦争と外交の舞台裏を明かす。

毎日新聞 2025/06/07、日本経済新聞 2025/06/21

2025:5./ 223p
978-4-7887-2017-6

¥2,200〔税込〕



「主権国家」再考～近代を読み替える～

中澤 達哉 編

歴史学研究会 著

岩波書店

「主権」を主張した他国への侵略や戦争、人道危機はなぜなくなるのか。複合国家、帝国、国民国家が織りなす「主権」の多様性を歴史的にひもとく、近代の初発を問い直す。シンポジウム4年分の成果を再構成した論集。

毎日新聞 2025/06/14

2025:4./ 372p
978-4-00-061694-2

¥4,730〔税込〕



過去と思索<1>(岩波文庫 青 N610-2)

ゲルツェン 著

岩波書店

ナポレオン侵襲前夜にモスクワで生まれ、「パリ・コンミュン」前夜にパリで没したゲルツェン。「人間の自由と尊厳」の旗を掲げた亡命者の壮烈な人生の告白。1は、生い立ちから政治に目覚めた青年時代までを収録。

毎日新聞 2025/06/14

2024:5./ 510p
978-4-00-386040-3

¥1,507〔税込〕



縮む韓国苦悩のゆくえ～超少子高齢化、移民、一極集中～(朝日新書 1003)

朝日新聞取材班 著

朝日新聞出版

出生率の低下、高齢者の貧困化、自治体の半数超が消滅リスク、不法滞在者42万人以上…。韓国の若者は現実にどう向き合い、どこに希望を見出すのか。変貌する韓国の実情と背景を描く。『朝日新聞』デジタル配信を元に書籍化。

毎日新聞 2025/06/14

2025:5./ 249p
978-4-02-295317-9

¥990〔税込〕





哲学するベートーヴェン～カント宇宙論から《第九》へ～(講談社選書メチエ 824)

伊藤 貴雄 著
講談社

ベートーヴェンにとってカント哲学が意味したものとは何か。ベートーヴェンと、彼を取り巻く文化的・社会的文脈から、<第九>を生んだドイツの時代精神を描き出す。創価大学文学部講義をもとに書籍化。

毎日新聞 2025/06/14

2025:5./ 343p
978-4-06-539670-4
¥2,420〔税込〕



ポーの一族<1> 復刻版(フラワーコミックス)

萩尾 望都 著
小学館
毎日新聞 2025/06/14

2016:5./ 192p
978-4-09-138400-3
¥471〔税込〕



ガウディの伝言(光文社新書)

外尾 悦郎 著
光文社

大学で彫刻を学んだ25歳の青年は、ふらっとやってきたスペインのバルセロナでガウディの建築と出逢った。サグラダ・ファミリアで彫刻家として活躍する著者が、天才建築家のメッセージを読み解く。

毎日新聞 2025/06/14

2006:7./ 317p
978-4-334-03364-4
¥1,045〔税込〕



人々の暮らしぶりから考える中国経済はどこまで独特か?～官と民のせめぎ合いで読み解く経済学～

岡本 信広 著
白桃書房

普通の人々の、実感のこもった語りを起点に、ニュースだけでは分かりにくい中国経済を解説。一党支配の下、経済を管理したい官と自由に経済活動したい民が強くせめぎ合う、独特な経済が理解できる。

毎日新聞 2025/06/14

2025:4./ 320p
978-4-561-96145-1
¥3,300〔税込〕



奪われた集中力～もう一度“じっくり”考えるための方法～

ヨハン・ハリ 著
作品社

以前に比べて仕事も読書も集中できない。でも、スマホは片時も手放せない。私たちの集中力はただ失われたのではなく「奪われ」ていること、そして必要なのは社会全体で「取り戻す」取り組みであることを明らかにする。

毎日新聞 2025/06/14

2025:6./ 349p
978-4-86793-090-8
¥2,970〔税込〕





攻殻機動隊論 新版 2025

藤田 直哉 著

作品社

30 年前に予言し、未来を創造し続ける SF「攻殻機動隊」。現実を進化させた「攻殻機動隊」シリーズの作品世界を徹底解剖し、その内在する力と日本文化の根本をえぐる。「紅殻のパンドラ」などの新たなシリーズの解説を増補。

毎日新聞 2025/06/14

2025:5./ 381p
978-4-86793-093-9

¥2,970〔税込〕



人情列車(SWITCH LIBRARY)

イッセー尾形 著

スイッチ・パブリッシング

イッセー尾形が、野を山を町を、そして異国を縦横無尽に走る! 宮沢賢治の作品からヒントを得た 13 の物語。本人が描いた挿画もカラーで収録。『Coyote』掲載を改題し、書き下ろしを加えて単行本化。

毎日新聞 2025/06/14

2025:4./ 317p
978-4-88418-668-5

¥3,520〔税込〕



ペットを愛した人たちがペットロスについて語ったこと～作家・アーティストたちの 152 の言葉～

サラ・ベイダー 著

フィルムアート社

ペットとの絆、別れを迎える「そのとき」の心境、その後の喪失感とどう向き合ったか。レイモンド・チャンドラー、ヘレン・ケラーなど、古今東西の著名人がのこした、ペットにまつわることばとエッセイを収録する。

毎日新聞 2025/06/14、産経新聞 2025/06/22

2025:5./ 245p
978-4-8459-2408-0

¥2,200〔税込〕



外務官僚たちの大東亜共栄圏(新潮選書)

熊本 史雄 著

新潮社

「無謀な構想」の本丸は軍部でも右翼でもなくエリート官僚だった! 日露戦後、外務省は変化する情勢の中で誤算を重ね無謀な秩序構想を練り上げていく。国際派エリートたちが陥った「失敗の本質」を外交史料から炙り出す。

毎日新聞 2025/06/14、日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 301p
978-4-10-603926-3

¥1,980〔税込〕



<ていねいな暮らし>の系譜～花森安治とあこがれの社会史～(叢書パルマコン・ミクロス 10)

佐藤 八寿子 著

創元社

羨望と同時に嫉妬をもかきたてる<ていねいな暮らし>は、現代日本特有の文化なのだろうか。『暮らしの手帖』初代編集長・花森安治の足跡から中華圏における流行まで、連綿と続く<暮らし>へのあこがれの社会史を追う。

毎日新聞 2025/06/14、日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 276p
978-4-422-70180-6

¥2,970〔税込〕





『三国志』を読む(岩波現代文庫 文芸 370)

井波 律子 著

岩波書店

日中両国でいまでも書きつがれ、読みつがれている“三国志”の物語。「三国志」と「三国志演義」の両方を訳した第一人者が、平明な語り口で歴史の醍醐味と物語のおもしろさを存分に語る。

毎日新聞 2025/06/21

2025:5./ 320p
978-4-00-602370-6

¥1,408〔税込〕



暦のしずく

沢木耕太郎 著

朝日新聞出版

宝暦8年、日本の芸能史においてただ一人死刑に処せられた人物、馬場文耕。土分を捨て貧乏長屋に住まい、軍記物を講釈した、知られざる男の生涯を鮮やかに描き出す、著者初の長編時代小説。『朝日新聞 be』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/06/21

2025:6./ 556p
978-4-02-252062-3

¥2,420〔税込〕



次の整理(ビッグ コミックス)

光用 千春 著

小学館

10年前のあの日、一瞬だけ隣の席になった黒川といじめられっ子の天野。そんな2人が、物語をめぐる本気の「整理」を始める!

毎日新聞 2025/06/21

2025:4./ 192p
978-4-09-863382-1

¥770〔税込〕



生活

町屋 良平 著

新潮社

渋谷の隣、代官山の実家暮らしで、バイトと洋服屋めぐりに明け暮れる椿。20歳の毎日は、友達に囲まれ、彼女ができたりフラれたりと一見刺激的だが…。偶然と必然に彩られたジェットコースター小説。『新潮』掲載を単行本化。

毎日新聞 2025/06/21

2025:5./ 440p
978-4-10-352273-7

¥3,300〔税込〕



揺れる輪郭

グレアム・マクレー・バーネット 著

早川書房

精神科医ブライスウェイトの伝記執筆のため、資料を集めていた“私”の元に、ある女性のノートが届く。姉の死の真相を探るため、ブライスウェイトの元を訪れた患者が書いたものだ。だが、その語りには小さなズレが忍び込み…。

毎日新聞 2025/06/21

2025:5./ 354p
978-4-15-210429-8

¥3,300〔税込〕





老いの思考法

山極 寿一 著

文藝春秋

動物は、基本的に繁殖能力がなくなったら死ぬので、長い老年期がない。人生後半戦をどう生きるかというのは、人間だけがもつ問いである。人生の老年期をどう捉え直したらいいのか、老いをめぐる新しい思考法を提示する。

毎日新聞 2025/06/21

2025:3./ 219p
978-4-16-391964-5

¥1,650〔税込〕



センセイの鞆(文春文庫)

川上 弘美 著

文芸春秋

高校の先生と飲み屋で十数年ぶりに再会したツキコさん。七十代のセンセイとの淡き恋を描く、谷崎賞受賞のベストセラーの文庫化

毎日新聞 2025/06/21

2004:9./ 278p
978-4-16-763103-1

¥682〔税込〕



海まで 100 年

笠木 泉 著

白水社

午前5時、夢のほとりで目覚めた私たちは、海への道をゆく-。零れるほどの詩情で涙と笑いを誘う、静かなトリログ劇の戯曲。「モスクワの海」を併録。スヌーヌー公演記録も掲載。切り取って使う上演許可申請書付き。

毎日新聞 2025/06/21

2025:5./ 198p
978-4-560-09180-7

¥2,530〔税込〕



ファスト化する日本建築(扶桑社新書 533)

森山高至 著

扶桑社

「木」を貼りたがる公共施設、写真映えを優先する建築デザイン…。早い工法、安い建材、簡単な計画といった、ファスト化する最近の日本の建築はなにかがおかしい。建築エコノミストが、業界を蝕む腐敗を斬る。

毎日新聞 2025/06/21

2025:4./ 302p
978-4-594-10006-3

¥1,155〔税込〕



フラット登山～歩くを楽しむ、自然を味わう～

佐々木 俊尚 著

かんき出版

都会の散歩よりももっと深く濃い自然に浸り、ただ歩く喜びを満たす-。散歩以上ロングトレイル未満の新しいアウトドア「フラット登山」を提案。週末すぐに行けるコースガイド 30 も収録。

毎日新聞 2025/06/21

2025:4./ 446p
978-4-7612-7801-4

¥2,420〔税込〕





古代ギリシア人の歴史(刀水歴史全書 103)

桜井 万里子 著

刀水書房

ギリシア語を母語とした人たちによって、地中海の島々と山々から文明は生まれた。前 1000 年頃から前 322 年までの古代ギリシア人の歴史を通時的に記述。彼らの試行錯誤、創意工夫、そして古典作品の魅力を伝える。

毎日新聞 2025/06/21

2025:5./ 410p
978-4-88708-445-2

¥4,400〔税込〕



アメリカ～空飛ぶ野ネズミの世界一周～

トーベン・クールマン 著

ブロンズ新社

ネズミのパイロットに触発されて、飛行機をつくった発明家の野ネズミ。ニューヨークやアフリカをまわる世界一周の旅に出て、やがて運命的な出会いを果たし…。ネズミの冒険シリーズ第 5 弾。

毎日新聞 2025/06/21

2025:5./ 123p
978-4-89309-743-9

¥2,970〔税込〕



建築と利他

堀部 安嗣／中島 岳志 著

ミシマ社

土、光、風、生き物たち、歴史、記憶…。その土地に「あるもの」が生きる設計は、いかにして可能か。近代の「建築」を未来に向け更新する、堀部安嗣と中島岳志の対話を収録。

毎日新聞 2025/06/21、日本経済新聞 2025/06/28

2025:5./ 163p
978-4-911226-19-3

¥1,980〔税込〕



ラジオの、光と闇～高橋源一郎の飛ぶ教室 2～(岩波新書 新赤版 2062)

高橋 源一郎 著

岩波書店

過去に思いを馳せ、生や死を想う、くり返し味わいたい極上のことばの宝庫-。“夜開く学校”として人気を誇る、NHK のラジオ番組「飛ぶ教室」のオープニング・エッセイのうち 2022 年 4 月～23 年 3 月の 2 年分を収録する。

毎日新聞 2025/06/28

2025:4./ 276p
978-4-00-432062-3

¥1,166〔税込〕



レインボーことば絵じてん～英語つき～

羽鳥 博愛 著

学研

文字を覚えはじめる幼児から小学生を対象に日本語のすばらしさや楽しさを紹介。国語辞典であり英語辞典であり、絵本であるという内容豊富な本。親子で遊び親子で学ぶ。

毎日新聞 2025/06/28

1995:1./ 352p
978-4-05-300128-3

¥1,606〔税込〕





不機嫌ばかりな私たち

渡辺 満里奈 著

講談社

更年期によるホルモンバランスの乱れや古い、育児・家事、家族のトラブル、仕事...。大人の女性は「不機嫌」になることがいっぱい! 渡辺満里奈がミドルエイジの思いやモヤモヤ対処法を真摯に綴ったフォトエッセイ。

毎日新聞 2025/06/28

2025:5./ 143p
978-4-06-535992-1

¥1,870〔税込〕



近親性交〜語られざる家族の間〜(小学館新書 493)

阿部 恭子 著

小学館

犯罪の加害者家族支援を長年続けてきた第一人者が、家族間性交の具体的な事例を通じて、「家族神話」の弊害を詳らかにし、日本社会のタブーに風穴を開ける。テキストデータをダウンロードできる QR コード付き。

毎日新聞 2025/06/28

2025:6./ 253p
978-4-09-825493-4

¥1,100〔税込〕



不適切な昭和(中公新書ラクレ 841)

葛城明彦 著

中央公論新社

女性は 25 歳で定年。列車のトイレは垂れ流し式。芸能人は住所を公開していた....。これが令和の日本と同じ国なのか? なつかしくもおかしい昭和 40~50 年代の日本の姿を訪ねつつ、私たちが失ったもの、得たものを考える。

毎日新聞 2025/06/28

2025:5./ 229p
978-4-12-150841-6

¥990〔税込〕



害虫の誕生〜虫からみた日本史〜 増補(ちくま学芸文庫 セ 9-1)

瀬戸口 明久 著

筑摩書房

江戸時代、虫は自然発生するものだと考えられていた。だが、近代化の過程で、「害虫」は排除の対象となっていく。日本において「害虫」がいかにして誕生したかを、科学と社会の両面から考察し、人間と自然の関係を問いなおす。

毎日新聞 2025/06/28

2025:6./ 281p
978-4-480-51178-2

¥1,320〔税込〕



ハリウッドのプロデューサー、英国の城をセルフリノベする(亜紀書房翻訳 ノンフィクション・シリーズ 5-3)

ホップウッド・ディプリー 著

亜紀書房

ハリウッドの映画プロデューサーが、イギリス北部の城館を復興することに。待ち受けていたのは、まさに廃墟同然の建物との格闘だった。試練を乗り越え、夢を実現しようと奮闘する、まじめでファニーな挑戦記。

毎日新聞 2025/06/28

2025:3./ 375p
978-4-7505-1870-1

¥2,860〔税込〕





コロナ対策の政策評価～日本は合理的に対応したのか～

岩本 康志 著

慶應義塾大学出版会

コロナ禍における日本の政策対応を、EBPM(合理的根拠に基づく政策形成)の視点と経済学の視点から検証。数理モデルの誤用や費用対効果の検証の軽視といった問題を鋭く指摘し、次なる危機に備えるための知見を提示する。

毎日新聞 2025/06/28

2025:6./ 280p
978-4-7664-3038-7

¥3,300〔税込〕



「グランプリ女優」京マチ子の誕生～フランスの日本映画受容史～

中山 信子 著

彩流社

映画「羅生門」から「鍵」まで、フランスで京マチ子はどう見られたのか。作品の評価、彼女の演技、演じた女性像について日仏の新聞・雑誌の言説を比較検討し、作品の受容に関する政治的、経済的、社会的側面を考察。

毎日新聞 2025/06/28

2025:4./ 291p
978-4-7791-3036-6

¥3,300〔税込〕



仁左衛門花実抄

宮辻 政夫 著

法蔵館

十五代目片岡仁左衛門の芸の特徴はどこにあるのか、表現している人物像はどういうところが独自なのか。「仮名手本忠臣蔵」の「大星由良之助」、「女殺油地獄」の「河内屋与兵衛」など代表的な 13 役を通して、芸の核心に迫る。

毎日新聞 2025/06/28

2025:5./ 243p
978-4-8318-5657-9

¥2,750〔税込〕



この史代 鳥がとび、ウサギもはねて、花ゆれて、走ってこけて、長い道のり

この史代、福永信、森下達 著

青幻舎

ギャグ漫画からシリアスなストーリー漫画まで、たくさんのジャンルの漫画を描く漫画家・この史代。原画やロングインタビュー、高校時代の漫画、詳細作品解説、自費出版本「すずしろ帖」などを収録する。展覧会の図録。

毎日新聞 2025/06/28

2025:5./ 312p
978-4-86152-995-5

¥3,520〔税込〕



猿、鹿、屋久島。

奥田達哉 著

日本写真企画

シカの毛づくろいをするサル、家族のようにシカに接するサルの赤ん坊…。アジア各国で多種類の霊長類撮影に取り組んできた写真家・奥田達哉が、屋久島のサルとシカ、その交流の稀有な瞬間をとらえた写真集。

毎日新聞 2025/06/28

2025:4./ 95p
978-4-86562-201-0

¥3,850〔税込〕





ランラン星のテテロン～宇宙の子から地球の子へ～

権 正生 著

展望社

韓国のベストセラー童話作家・権正生最後の作品。500年後の地球を見まもる「ランラン星」からやってきたテテロンの物語。500年前と500年後の社会を同時に描いた、地球と宇宙の子どもが交流するファンタジー。

2025:5./ 199p

978-4-88546-457-7

¥1,870〔税込〕



9 7 8 4 8 8 5 4 6 4 5 7 7

毎日新聞 2025/06/28